

# ADVANCE OF

## ティターンズの旗のもとに

Vol. 2

### CONTENTS

- 〈カラーピンナップ〉ガンダムTR-1〔ヘイズル〕  
＆オードリー・エイプリル〔等々下るし〕
- ティターンズ・デスト・チーム vs ジオン軍残党  
【初出 電撃ホビーマガジン2004年1月号】
- 機動戦士Zガンダムとアドバンス・オブ・Z
- EPISODE 2 B-  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年5月号】
- EPISODE 3.0  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年7月号】
- EPISODE 3.1  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年9月号】
- コラム「機動戦士Zガンダム」JOVO  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年11月号】
- EPISODE 3.2  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年11月号】
- EPISODE 3.3  
【初出 電撃ホビーマガジン2004年1月号】
- コラム「ガンダムTR-1〔ヘイズル〕」西館肇哉
- ジム・クウェル〔ヘイズル〕の機動性〔1/100〕  
＆ジム スナイパーⅡ〔キャノン砲〕バックアップ型〔1/100〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年5月号】
- EWACジム〔1/100〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年6月号】
- ガンダムTR-1〔ヘイズル〕2号機〔1/100〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年8月号】
- ガンダムTR-1〔ヘイズル〕クランシュモデル〔1/144〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年2月号】
- プロトタイプアッシュマーTR-3〔キハール〕MA形態〔ノンスケール〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年9月号】
- プロトタイプアッシュマーTR-3〔キハール〕MS形態〔ノンスケール〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年10月号】
- コラム「ジムⅡのハイザック」
- ジム改Ⅱ C0085年仕様〔1/100〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年4月号】
- ジム・クウェル〔コンバート〕方面軍資料〔1/100〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年10月号】
- ガンダムTR-1〔ヘイズル改〕〔1/100〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2004年1月号】
- 高機動型ゲルググ〔1/100〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年5月号】
- リック・ドム＆ゲルググ〔ショットウツナー〕〔1/144〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年7月号】
- コラム「ティターンズ政権の運営」
- ザク〔ショットウツナー〕〔1/100〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2003年8月号】
- リック・ドム〔ショットウツナー〕〔1/180〕  
【初出 電撃ホビーマガジン2004年1月号】
- コラム「年表＆用語事典」
- コミック解説
- 巻付

表紙イラスト ヘイズルTR-1〔ヘイズル〕5号機フリー エイプリル〔機動戦士Zガンダム〕

電撃ホビーマガジンズヘシャル

# ADVANCE OF

アドバンス・オブ・Z ティターンズの旗のもとに

Vol. 2

このムックは電撃ホビーマガジンにて好評連載中の  
「アドバンス・オブ・Z ～ティターンズの旗のもとに～」の  
連載第9回(2003年5月号)～第17回(2004年1月号)を  
再録(一部再編集。連載2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16回は掲載せず)したものです。  
そのため、文章中に時節のあていないものも多少あります。  
あらかじめご了承ください。



## U.C.0083~0088年表

0084	12 04	シム・フレイマの連環による「ディンズ」結成、招き国軍獲得と対決開始。
0084	06 17	アグリス、地球軍の襲撃に待機する奇襲
0085	07 31	3D/Vビデオ中、ディンズのサブエピソード 1 3D/Vビデオに悪ガキを投入し住居を破壊。 反逆者連絡網(AM EUG = ユーゴ)発覚化
	09 08	グリス、サイドIIに帰宿
0086	02 05	アグリス、地球軍によって発見
0087	03 02	ユーゴ、グリーン ノア I 再び戦況MS2戦を激突
	03 16	ユーゴ、太陽電池車を攻撃
	03 18	ターガマ、サイドI・3D/Vビデオに入場
	03 25	ターガマ、アマラン市に入場
	04 28	南緯の木星エネルギー輸送線(ジュピタース)地球圏に到達
	05 03	ターガマ、ディンズグループと接触、プライトノゾ、ユーゴに参画
	05 11	ユーゴ、地球軍の経路地ジャブローへ入り、同族兵隊率により軍地は破壊、カワリ
	05 22	ディンズの経路地とカワリのアドラムへ。ケネダ島地に
	06	ディンズ、ルナリアー軍団に再編成 2. 巨アバウ クーを移動、 宇宙警察「セザ」の区域に脅威
	06 29	ディンズ、ルナコンシディアを襲撃
	07 06	アドラム、ルナコンシディアを占拠
	08 10	ディンズ、アドラム作戦を開始、フォロ プラウン市を襲撃
	08 17	ユーゴの指導者 スクウス・フラックスに誘われ、監視される
	08 18	連環計画でディンズの母星を大規模に破壊しようとする決定が固められる
	08 24	ディンズ、グラナダ市にコロニーへと上陸すると被る失敗の末
	08 14	ディンズ、サイドII基地に連絡を確立
	08 21	ディンズ、サイドII・25(Vビデオ)に悪ガキと接しみる失敗
	10 10	ディンズ、フォロプラウン市の町と港を破壊
	10 12	アグリス、地球圏に到達
	10 14	ユーゴ、アグリスに便宜を図るが交渉は失敗
	10 15	ディンズとアグリス、連合を結成
	10 19	ターガマ 城防と軍隊のためルナリアーズと接触
	11 02	ユーゴとカワリ両者も、ルナリアーズの連環計画を軍事面
	11 03	未詳、ルナリアーズ口頭報告後、シムとノーアへ脱出
	11 16	ユーゴ、ディンズの母星接近を告げ、全世界にディンズの更迭を告知
	11 24	ターガマ、地球の中心に「不十分」3D/Vビデオ(セルビル)ビデオに入場
	11 30	ディンズ、ディンズに到着
	12 07	ディンズ、ディンズ3D/VビデオレーダーでサイドII・18(Vビデオ)を確認
	12 14	ディンズ、サイドII・12ビデオに悪ガキを送り、住民は全員死亡
0088	01 18	アグリス、セザの件を暴露、グリスを去る。 小惑星帯アグリスはコナチナの保護員になる。
	01 25	アグリスとディンズの兄弟が接触、シムト入亡。
	02 02	以降、シムとディンズの空爆を断る ディンズ、「メルニョローム」作用、艦隊増補によりグリス2を占拠。 アグリスの軌道変更に対応
	02 20	ユーゴ、アグリス、ディンズによる艦隊増殖開始
	02 22	ユーゴ、コロニーレーダーでディンズの母星を遠望させるが、効力の準動向
	05	ディンズにディンズ母星の軍事資料が送れる

## ティターーンズ・テスト・チームと宇宙世紀

### T3部隊の活動

0084 11 シム改良機動型、アレキサンドライア絶縁系高圧アスワンに配備 T3増長  
マキム コーディ大尉機、同時にウェス マーフィー、小隊長に配任  
(EPTSCDE 081)

0084 12 ジム・スナイパーとおよびガンダムTR 1. アスワンに配備 カール  
マウバラおよびエリカ・アルド ハンター T3に配備(EPIISODE 1. 2)



006507 ハイザックTR2 アスワンに配備。T3、サイド1 30ハッチで、ハッチの作戦要請のため後方支援活動を行う(EPSDOE 2クール2回)



0085 08 T3, コム・ヘイトウ ルンガ沖で配備艦の半数を大量、ア・ヘ・ター TR-3  
アスワンに配備(EPISODE 2 9~31)



000002 “J”スルウォッチに参戦した「3」歴代

### 機動戦士Zガンダム ストーリー・デザインスト リー・Zガンダムの冒険

U.C.0087年、30年ぶりに  
新機軸に挑戦したガンダム  
製作は、その歴史的な使命を果  
てて、この対立を決定的なもの  
とす。同年3月31日に起きた  
「ダム・M」爆発事件による「サ  
ターン」に誘引された「Zガン  
ダム」は、この物語の中心とな  
る。この物語は、この物語の  
中心となる。この物語の中心  
となる。この物語の中心とな  
る。この物語の中心となる。

[illegible]

0088 Q5 エリアルド ハンター中尉、ディター  
ンス在籍時の機軸の帯状について  
疑問される。志保君コンラット・モリ  
ス少佐 ハンター中尉の昇格を引  
き替える。



コナッド・モリス  
遠東華達棉織所の  
法務官で、華人であり  
ながら弁護士を務め  
ている。妻は香港に  
いる。妻を殺めている  
正統派、左派が、始め  
いつも彼をついて歩  
いている。グリスは  
彼らに行かれたデッ  
ーンス構成の軍事  
裁判のひとである  
エリアルトの報告を  
受け持つことになっ  
た。

T3の活躍を振り返るために



発行：メディアワークス  
価格：本誌200号+税



興行・メディアワークス  
編纂・実録F50田上利

「三」の巻軸又平装本は、鎌倉時代の遺物と推定される。これは、  
太上天皇に於て、  
延暦の御代に、

## T3配備機とティターンズMS



## RMS 179 シムⅡ

頭高 18.1m  
本体重量 40.5t  
一年戦争時の連邦軍主力機シムを近代化改修した機体。連邦軍での制式番号はRGM-79Rで機体カラーがグリーンである

RGM-79CR シム改修機動型  
& RGM-79SR シム スナイパーⅢ

このシム改修機動型は、連邦軍が次世代主力MSとして「RGM 79RシムⅡ」の制式採用を決定したことから、タイターンズでもその採用を待つための計画策定機として作られた機体である。RGM 79Rシム改修機動型としてRGM-79Rの仕様と合わせ、各種センサー・スラスターなどが強化されている。また、わずかなデフレーションの筆でスナイパータイプへの仕様変更が可能なため、T3部隊では標準機としてこの機体を使用している

YRMS 106+DL 85X  
ハイザックTR-2  
[ヒクウィク]

MSが機体可能な範囲のヒーム・キャンノンを駆動する推進器やオーバーレンジシステムなど、火動を運用するシステム全体の運用試験のために開発された機体

## YRMS 106+ イザンク

頭高 18.0m  
本体重量 38.7t  
一年戦争後、初めて新機設計された連邦軍の戦術機。連邦軍で通常使用されている機体カラーはブルーである

YRMS-106  
ハイザック先行機動型

ジオンのMSメーカー「ジオニクス社」を倒産させたAGE社が開発した機体。そのための外見は旧ジオン軍の「ザク」を模倣したもの。また内部構造にもその影響がハッキリと見られる。標準機としては初めて「Uニアシート」と「全天候型センサー」を標準装備するとともに、試験機としてUニアシートとOGBS、タイターンズでも採用を検討するためにT3部隊に供試験機が納入された

NRX-044  
試作アンマー-TR-1  
[キハール]

NRX-044アンマーの機体開発にあたり軍力下では可変システムにかかる費用が大きいため、まずは費用が少ない少力機(宇宙空間)でのテスト用に試作機が製作された。可変システムの可変性を付けたティターンズが、なかなか後継にこの試作機を機体として採用の意思を立派に現されたのが「TR-1(キハール)」である

## NRX-044 アンマー

頭高 19.3m 本体重量 41.1t

連邦軍初の可変型であるアンマー。内蔵の可変機構も、モビルスーツ形態では地上戦にも必ず新機に採用が検討されている機体である



## RX-121 カンタム TR-1 イースル

T3部隊のマーフィー小隊に配備された運用実験機。いわゆるガンダムヘッドを装備することで、視覚的にジオン軍残党に与える心理的影響をテストするために作られた。機体のベースにはジム・クセルがそのまま使用されている。ただし、背部の強化バックパックとそれに付属する可動式ブースター・ボット、そして脚部の強化スラスターなど機体の各部が運用試験を兼ねた強化パーツに換装されており、その機体のポテンシャルはガンダムと呼ばれるにふさわしい。チョコバム・アーマの増加装甲を装着したFA(フルアーマ)形態も存在する。

## ティターンズの部隊運用

通常、遠征宇宙軍のMS部隊の運用は「サラミス級宇宙巡航艦」のMS搭載能力を考え、MS3機からなる小隊が2個で1中隊を形成している。つまり、サラミス級3隻ごとに6機のMSが1個中隊として配備・運用されている。これに対し、ティターンズが使用する一年戦争後初の本格的なMS母艦型の宇宙艦船「アレキサンドリア級宇宙巡航艦」は、実に12機ものMS搭載能力を有している。そのため、ティターンズ

のMS部隊はアレキサンドリア級1隻につき2個MS中隊(=4個MS小隊)で編成されており、1隻のみでも充分に作戦行動できるだけの戦力を保有しているのである。

アレキサンドリア級宇宙巡航艦



## ティターンズのMS生産拠点

この時代、ティターンズはMSの型式番号の統一を図っている。試作機にはRX、量産機にはRMSというアルファベットを割り振り、次の3桁の数字の上2桁が生産拠点で下1桁が開発番号を表すようにしたのだ。生産拠点は以下のリストのとおり。

- 10 グラナダ
- 11 ルナツー
- 12 コンバットウ
- 13 (ア・バオ・クー(ザダムの門))
- 14 ベズン
- 15 ニューギニア
- 16 キリマンジャロ
- 17 グリプス
- 18 ジャブローA
- 19 ジャブローB



**機動戦士ガンダム ストーリータイジエント2**  
 量産型宇宙軍の戦局とティターンズの接近  
 ティターンズも取崩しに転じた。月面の主要都市であるフォン・ブラウンを制圧して宇宙移民者の反乱の悪夢を叩くアバド作戦を遂行した。ティターンズは取崩しに転じた。月面の主要都市であるフォン・ブラウンを制圧して宇宙移民者の反乱の悪夢を叩くアバド作戦を遂行した。ティターンズは取崩しに転じた。月面の主要都市であるフォン・ブラウンを制圧して宇宙移民者の反乱の悪夢を叩くアバド作戦を遂行した。

ティターンズは取崩しに転じた。月面の主要都市であるフォン・ブラウンを制圧して宇宙移民者の反乱の悪夢を叩くアバド作戦を遂行した。ティターンズは取崩しに転じた。月面の主要都市であるフォン・ブラウンを制圧して宇宙移民者の反乱の悪夢を叩くアバド作戦を遂行した。ティターンズは取崩しに転じた。月面の主要都市であるフォン・ブラウンを制圧して宇宙移民者の反乱の悪夢を叩くアバド作戦を遂行した。

ティターンズは取崩しに転じた。月面の主要都市であるフォン・ブラウンを制圧して宇宙移民者の反乱の悪夢を叩くアバド作戦を遂行した。ティターンズは取崩しに転じた。月面の主要都市であるフォン・ブラウンを制圧して宇宙移民者の反乱の悪夢を叩くアバド作戦を遂行した。ティターンズは取崩しに転じた。月面の主要都市であるフォン・ブラウンを制圧して宇宙移民者の反乱の悪夢を叩くアバド作戦を遂行した。

## STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇

ストーリー：今野 敏

メカデザイン：藤岡謙典

キャラクターデザイン：宮藤卓也

マーキングデザイン：藤岡謙典&ベッパーショップ

設定協力：片岡大輔

企画：電撃ホビーマガジン編集部

企画協力・設定：サンライズ

©創通エージェンシー・サンライズ

# A.O.Z U.C.0085~0086

人類が、数えきれない人口を宇宙に移民させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079。

地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り、

地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。

既に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。

しかし、ジオン軍の残党は各地に潜み連邦に対する抵抗活動を行ったのである。

U.C.0083、地球連邦軍はこれらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立。

地球圏の治安維持を担った…



電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

**ADVANCE OF**  
ディターンズの旗のもとに



## EPISODE 2

■ 瀛洋艦アスワン モビルスーツデラック

000005 年三月

トンは、カタパルトに乗った機体を跳めすつぎやいた「本場」にこれが出るのかよ。これ、ヘイズルの予備パーツ用の機体だぜ」

／＼片の標記方式

「おまえは、口説が多い」ヘルメットの手にヘンドリ

「う・ん、ス・エ・の・だ・み・声・が・響・い・た・。」「何・も・実・戦・に・出・よ・う・  
つ・て・作・じ・や・ね・え・ん・だ・」

「でんじやねえんだ」

「おまけにブレイラントとブースターはクを背負ってゐるんだぜ。悪くしろえもい」とだ。あんなふで急加速したら、へたなパイロットだと簡単にブーシクアウトだぜ」

「ミクアウ」だったせし

「聞えてるよ」エリアルド・ハンター中尉の声が  
つた。「へたなパイロットで暮らつたな」

太一へかなんか言ひで置かすべし

エリアルドはすでにヘイズ兄弟のユクティン  
にいた。

トシ水

「あんたのせいでと言ったんじゃないよ」ロビートは言った。「でもね、スラスターの使い方、気を付けないと慣方向からとんでもないじがかるぜ」

新大園方は、是より下を

「わがづてる。それを体験するための実験小隊じゃないか」

「さしつかえ」

「ピート、兵装の出力リミッターは、ちゃんと訓練用に設定したんだろ？」再び、ヘンドリックスは、さんの声が聞えてくる。「演習規定だぞ。機密版では、高いモビルスーツを破壊したとなりやき俺たちだって懲罰もんだ」

傳大古天竺下遊集卷一

「ちゃんとやっております。チーム出力は最大で1パーセント。直撃しても機体は損傷しない。けつう熱くなるでしようけどね」

11-1101-0000

「イスラム教の仲間で、これは、カール・マルクスが提唱するジューン・パイ（皿がひたさる）フランチには、中絶手術と投薬のミナトを取り付けられている。そして、付いたパタパタは、右足には、ロシアン・パイ（皿）を持って、そして、特製のイスラムのテストに答えて、ガバ・パイ（パイ）の型をイスラムに装束していた。今、そのイスラムは、小さく、収納されている。艦内で取り回しが容易だ」。

取り回しが楽な太

「出撃よ」デックの管制室にいるオードリー・エプ  
ブリン中尉の声が聞こえた。「艦から5キロ離れ  
たら、状況開始よ」

了解「リアル」が





**エリアルドは、ガンダムに乗る誇りを胸一杯に感じていた**

コンペイトウ。かつてはジオン軍によってソロモンと誤られた宇宙要塞である。

現在ここには地球温暖化の次世代MS研究開発施設が画かれている。

U.C. (宇宙世紀) 0085年8月、遂に「30パンチ事件」と呼ばれることになる。

作戦行動の進展状況を駆入れ、掘堀地コンペイトウに帰還したティターンズ・テスト・チームは、次の作戦行動の前に、MSの整備実験を行うこととなった。

「ヘイデル・出来ず」

■コンベイトウ近海 ルンガ達

中華民國九年五月

エリートの、ガザダムに類するもの。同様に「エリート」が「ガザダム」にこの「イスラ」を備へて、ブルカ・エル・ガザ・ベドと取り付けた。ただ、それでも「ガザダム」の「イスラ」は特別な意味を持つてゐる。二戰戦争の最中「ガザダム」からその歴史は始つた。ジムの開発を促進して、地球上で先行試作の艦隊制がガザダムが投入されたことでもある。だが、また「ガザダム」が終つた。うとして、このとき「アムロ」用には「ガザダム」が開発されて、ジムの開発を促進して、地球上で先行試作の艦隊制がガザダムが投入されたことでもある。だが、また「ガザダム」が終つた。うとして、このとき「アムロ」用には「ガザダム」が開

方ダムは紫雲の歴史を持っている。今、エリ  
ルドはその方ダムに集っているのだ。カールとの  
横断戦とはいえ、力が入るのは当然だった。

規定の距離に達し、状況が開始された。

エリカは下機は、手頃な岩の隙に身を隠していた。モターの中のターゲットスコوپが目まぐるしく動き回る。カールのサム・スナイパーを操っていた。「おつた……」

エリアルドはつづやいた。機嫌転時は、通信が整  
じられている。ゴクピット内で何をしゃべろうと誰  
にも聞かれない安心感がある。

突然、機体の左側をヒームがぶった。エリアルドは反動的に機体を横に振り、岩壁から飛び出した。強烈なGで機中の乗客が片方に寄ってしまったような気がした。さらに、機体に妙な回転を感じた。長いプロペラントがモーターを生み、真横に移動できないのだ。

「でっかいプロペラントも、問題だな」

そのわり、推進断切れの心配はない。機動力  
においてはカールのジム・スナイパー車をはるかにし  
のいでるはずだ。だがカールのロドリゲズ・シ  
ャルはやめた。射撃は、両車のほうをずっとた  
たきに、今日のカールは、キヤノンを買換えている。

「ふん……」

カーミル機は、エリアルドの背後に回っていた。ヘイズルが機械を反転させたとき、またカーミルがライフルを撃つてきた。スラスターを使い、目まぐる



モビルスーツらしい機影が三つ、  
近づいてくる  
これ、演習じゃないよな

「近づくしかないか……」  
エリアルは、左右に身体を振りつつカール機に向かって突進した。  
「何だ、これ……」

突然カールの声がコロシアム内に聞こえた。  
はかな……。エリアルドは黙った。演習中は愛  
惜のみだ。退場は禁止されている。カールの声は  
さらに続いた。  
「エリアルド……いい構想だ……いい……ふふ……それ  
演習じゃないよな」

「ところでアスワン。撮影を継続。通信の制限を解除し直すと、映像を確認。これは演習ではない」「見逃じゃないぞ。カールが叩いた。『うちは演習用の武器しか持っていないんだ』」

解除するのは不可能だ。演習中の事故防止のための措置だ、それが真目に出た。

エリムドは、四方の至二ターミナルに受戻した。いたる三機のモビルスーツ。それは太陽光を反射する小さな輝点でしかなかったが、望遠モードを使い、機体を確認することができた。

見覚えのある機体が二機。過去に二回遭遇しているリック・ドムとザルドゥだ。そして、もう二機はアルグダだった。更にザク用のスパイアシールドを減速している。色は、量産型だ。

と云ふ近くに、彼らを捕獲せしめるサンジバル  
がいふところだ。ダンスは事前には発表でき  
なかつた。そこで小ベルト海域であることが災ひ  
したのである。

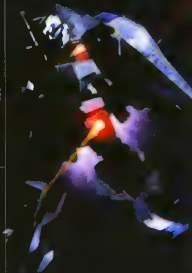
三機の敵は急遽に近づいてくる。カール・ガロン  
グレイ・エニアを撃った。敵の三機は散開する  
脅しにはならなかつた。

「カール、どんな事でもエリアルトは言った。カールが費しをかけている間に、エリアルトはなんとが接近戦に持ち込もうとした」。

矢張り役に立たないのなら、スベックで勝負するしかない。機体の質量をすべてぶつけてやれば、相手が損傷することもある。つまり体当たりだ。散開した敵は、まだ距離を取っている。カール



「いい演習だったじゃないか」  
 マーフィーの声が聞こえた。  
 それにカールがこたえた。  
 「勘弁してくださいよ、こんなの……」



三基のシールドブラスターのうち二つが、火柱に包まれている。そして、リクドットが撃ち抜かれていたマーフィーは、シールドブラスターを前にして、リクドットを撃つのだ。  
 さて、マーフィーのヘイセルは、ゲルグクに戦いを挑んだ。

ザクスの攻撃の手が離れたリクドットがやられたま、ザクのパイロットも見えたのだ。そして、今の戦場には、一種の緊張が漂っている。その緊張は、根柢にどうも無敵のようだ。

エリアルドは、再びザクスの二機に体当たりを見舞った。ザクFはカザバルトで射出されたように、半宙や間に空を抜けていく。攻撃の意図を失っているのかもしれない。あるいは、マーフィー機と戦うゲルグクを回避に行こうか迷っているのだから、マーフィーのヘイセルにゲルグクは強いビームファイトを展開した。ゲルグクのパイロットもたまたまではない。マーフィー機とゲルグクは互いにビームサブを撃ち合った。ゲルグクが放ったビームは、マーフィー機の胸アーマーを破壊した。同時に、マーフィー機が放ったビームがゲルグクを正面からとらえて、ゲルグクの損傷は大きく、瞬間不能に見えた。

そしてザクは機体の内部に入っていたリクドットからゲルグクからパイロットが脱出した。ザクF2の機体にて、パイロットが脱出した。ザクF2は、彼らは撤退した。

エリアルドは、また危機感を脱した。新しい機体の操縦感のせいだ。  
 「いい演習だったじゃないか、マーフィーの声が聞こえた。それにカールがこたえた。」

「勘弁してくださいよ、こんなの……」  
 マーフィーが言った。

エリアルドは、言葉の感覚を次第に自分のものにしていくのを覚悟していた。

EPISODE  
 END

NEXT EPISODE  
 PHANTOM  
 OF  
 ZEON

## EWAC(準納管減速)シム

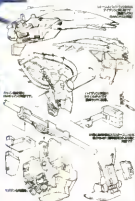
旧ジオン軍ではMS-06Eザク強行襲撃機など偵察を任務としたMSが開発されていたが、連邦軍では従来型の航空機や航空機の偵察能力を多く保有していたため、MSにこのような能力を持たせることはほとんどなかった。しかし、一年戦争後はMSのみで飛越された部隊が一般的となり、偵察機を配備するよりの保守機種の観点からもMSを転用するほうがメリットが大きかった。また、万が一襲撃に巻き込まれた場合は前線機では簡単に破壊されてしまうが、MSの防衛力であれば容易に破壊されることない。そこで連邦軍でも偵察・早期警戒を目的とした偵察機MSの開発が計画されることとなった。旧のEWAC(早期警戒用)シムは、ディターンズで封印が行われている旧連邦MSの開発プランである。

## 中距離支援

中距離支援を任務とするキャノン系MSの運用コンセプトを「バックパックの換装によってノーマルMSに持たせるための設備」旧ジオン軍のMS-14Dゲルググキャノンには、すでにこの思想が盛り込まれていた。

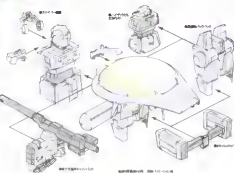
## 武装バリエーション・プラン

後述の巨大なドームが特徴的であるミノフスキー粒子射撃下ではレーダーの能力は半減するが、撃破率が高くなるという方式の実験結果が裏面されている。



## 一機動

AE社製のYRMS-10Bハイザック先行量産型が装備しているバックパックを強化したもののだが、開発が遅れ実験は先延ばしとなっている。旧はジム・スナイパーⅡに装備したという想定



T3形は実用部隊という性格上、さまざまなオプション装備や武装の運用実験を行っている。ここに掲載されているイメージは旧T3形機で運用実験が予定されている武装バリエーションの一例である。ヘイズル用トライ・ブースターは、ビグザムT11(ヘイズル)がシールド・ブースターを使用しないミッションの際に、その能力を補う装置として開発された。中距離支援ユニット、遠隔「キャノン・バック」はジムのなどの中距離支援機のコンセプトをバックパックの交換のみで実現する装備である。高機動バックパックは、YRMS-10Bハイザック先行量産型のバックパックをより強化した仕様のもので、ジム系の機体との相性が認識される予定であった。結局これらの装備は、ヘイズル用のトライ・ブースターがヘイズルの予備機に、キャノン・バックがジム・スナイパーⅡへと装備され、プランとは異なる機体で運用実験が行われた。



**ADVANCE OF**  
ティターンズの旗のもとに

「だから、反地球連邦政府運動との連携を模索」  
[2008]

「エウレカ」

「ただの市民運動ではない。独自の組織すら通じている」

「だが、所詮、連邦軍内の勢力争いだ。手を組むには値しない」

「時間過ぎた」

ガブリエルのその言葉にカザンクはうなずいた。  
「ハマーンとカーンが……」

「そうだ。ミネバ様を擁立して、ジオンの再興が成れば、我々の苦勞も報われる」

「苦勞だつて？」カザツクは笑つた。「僕は苦勞などとは思つていない。どうせ、僕はモビルスーツに乗る。ひとしかながらない男だ」

「ソロモンに駐留しているアレキサンドリア様……」  
ガブリエルは言った。「アスワンと聞いたか……。あの  
艦は問題だ」

「ガンダムを見たときは、肝を冷やした。ガンダムは俺たちにとって悪夢そのものだ」

「ガンダムを持つアスランの小隊。やつらとすでに三度遭遇している。だが、決定的なダメージを与えないとはできなかった。手強いやつらだ」

「テスト・チムなんださうだ」

「何だ、ア」

「新兵器のテストを任務とする小隊だ。ウサギのマークをつけている」

「それで、新兵衛を次々と繰り出してやるわけか」

カサノバ、ライオンがふと沈んだ表情になった。

「やじろをえいなければ、サイド・30パンチの強さ

殺は防げたかもしれない――

[illegible]

1000-7624/2006/0005-0000\$05.00/0

「この本は、『新編 日本書紀』の

「さう、大分強いのね。二重の扉、大分お堅いね。」

「もしや、おれさんだ」

「いすれにしても、そのアムステルダムに野々太田が」



# ■コンバットの月夜 暗黒の月夜

0053年正月

エリアルドたちマーファイ小隊は、暗黒任務に  
ついていたこのところ、度重なり政府軍の追跡が  
に活発になり、それに押応するようにジオン残  
党も息を吹き返してきている。

コンバットは、ジオン軍の目標とされる公  
軍が大きい。かつてコロニーと呼ばれたジオンの半  
面要塞であり、ここを巡る激戦で多くの犠牲者  
が出た。その時、海軍はここに鎮守府を置いた。  
アラウスの反乱の際には、アズナルガードにより  
鎮圧された。

ジオンの残党にとっては、重要な意味がある。  
そのときにある機雷宙域には特にギリウが  
潜みやすい。月と地球の引力のバランスが取れる  
場所つまりラグラジ点と称される。そこに岩  
石や鉄片によって生じた破片、塵などが取り込  
まれていると公称している。

アラウンは、コンバットと同じ軌道に乗り、機  
雷宙域の外側に位置している。そこからマーフ  
イ小隊が発進した。

先陣に立つのはマーファイ小隊長であるガン  
ダム・ヘイエルだ。その後方左翼にエリアルドのジ  
ム改、右翼にカールのハイザックがいる。カールの  
ジム・スナイパーは現在ノール形態に機体中だ  
った。

「星や艦船の残骸がちらちらと見えている。マー  
ファイの陣が聞こえた。二月や地球の引力に引  
かれて高度で移動している。云々からモビル  
スーツとさきほどたけりなす。」

「はいエリアルドは反動的に返事をよこした。  
たの陣電任務はむかし違うことは、危険  
な機雷宙域なのだ。」

「アラド」

突然、カールの声がしてエリアルドは回頭を見  
戻した。

「艦隊が？」

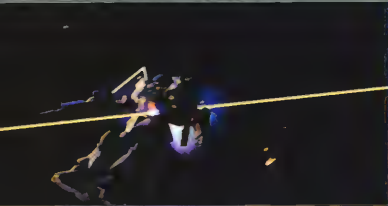
「いや……すいませを機雷にならうとした  
「敵がすな」

マーファイ小隊長の音が聞こえる。エリアルド  
がはたと息を吐いた瞬間、た。光の形が目の前  
を横切った大口徑のビーム砲だ。  
すぐ右手で光が膨れあがった。

「カール」

エリアルドは思わず叫んだ。ビームがカー  
ルのハイザックを貫いていた。船だ。どこかに潜ん





ていたのだ。

「黙れ」

「マフイーの音が響いてくる。エリアルはメイン  
スラスタを鳴かしてヘイルから離れた。」

「カーン、ズン、ズン……」

「マフイーが呼びかける。」

「だじようです。もう少しこのまま待てば直撃で  
した。」

「岩陰に隠れて機関を停止しろ。動かしているら  
詰まるぞ。」

「了解」

「カーンが機體を離脱して、何処へ行くのか？ 岩  
や岩陰の残骸が邪魔でリーダーが動かない。そり  
ゃアルドはスラスタを焚いて大急ぎで向こう

側に寄り込んだ。離れを見した。

「機體は、ゲルググです」

「こちらにリンクトよびいる。ゲルググは任せ」

「はい」

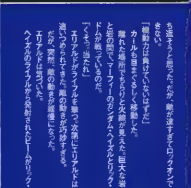
「エリアルは、先手を取ろうとゲルググに接近  
しつつ、ライフルを撃った。ゲルググは、岩から離れ  
て水の奥の岩陰に隠れる。」

「水と岩を抜いてやる。」

「ライフルを水陰に向けて撃つ。ビームの質量と  
熱で水が散散する。だが、その背後にゲルググは  
いるのだ。」

「カーン……」

「エリアルは無量のうちにスラスタを鳴か  
し、いた。水のビームがすぐ脇を通り過ぎる。響



「もどろきと想った。だが、機が速すぎてログオンで  
きない。」

「機動力は異なっているはずだ」

「カルも目撃者として移動した。」

「離れた場所であり、火照りを見た。巨大な岩  
と岩の間で、マフイーのガンダムヘイルとリグ  
ドが戦っているのだ。」

「くそ、出たれ」

「エリアルがライフルを撃つ。次第にエリアルは  
遠いつめられてきた。離れが巧みすぎる。」

「だが、突然、機が動きが凝滞した。」

「エリアルは叫びた。」

「ヘイルのライフルが撃たれた。ビーからリグ  
ド」



「ドの右腕を撃ち抜いた。ゲルググのパイロ  
トは、それに気づいたのだ。彼らも無敵で連撃を  
取り合っているはずだ。」

「アッ……」

「エリアルはつぎつぎと間違いく反撃のチ  
ヤスだった。」

EPISODE  
END

NEXT  
EPISODE

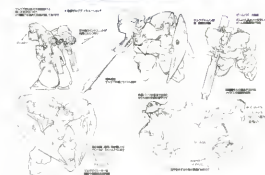
RESTORATION

# [ゲルググ改造型 ―シュトゥツァー―]

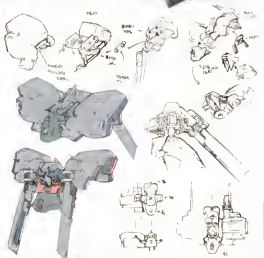
ジオン残党軍において物資の確保、特にMSの確保は最大の課題であった。しかし、生産能力を持たない彼らにとっては、現状保有するMSのみが残された最後の戦力だった。一方、その彼らを探査するディターンズ側は次々と新型機を前線に投入しており、質・量ともに戦力の差は開く一方であった。この状況を打破するため、独自の改造を施すことでMSの性能強化を行うジオン残党軍部隊は多かった。

このゲルググも、高性能化するディターンズのMSに対抗するため機体の改造が行われている。改造は主に推力の増強に主眼が置かれ、大きく盛り上がった両肩のパーツは推進剤も内蔵された補助スラスターとなっている。また、特設にはこの部隊の独自装備である通称“ワインチユニット”と呼ばれる有線誘導式の遠隔操作アームが取り付けられており、ゲリラ戦法の要となっている。

機体上半身の細部パーツ構造がよくわかる。追加パーツは上半身にすっぽりと適合するような形状を確保されている。バックパックもカスタムパーツに換装されている。



ゲルググの前装バリエーション。正規軍ではやらないような装備/ターンも、物資不足の残党軍では必要とあれは別でもありである



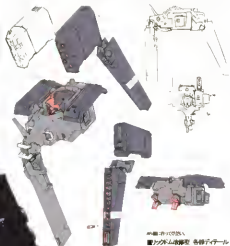
■機体ゲルググ 全機パーツ



凡庸者のザクとは異なり、運河領域の明確で何より機体完成度が高い。トムタイプDMSはカスタム機が非常に少ない機体である。しかし、シオン機宛軍においてはこの点も決して褒められないところである。



大きな機体ながらも、バックドムは、その分入量の調整を要することとなる。機体側ではメンテナンスが簡単なビーム兵器ではなく、信頼性の高いミサイルやバスターなどの汎用式兵器が多く採用されている。



※機体の色は、  
資料DMS仕様書 各種データ

追加パーツ・追加武装は、機体側の構造中にある下書きを避け、主に上書きで表現されている。こうしたことで、機体デザインの変化を最小限に抑えている。

### [リック・ドム改造型 ―シュトゥツァー―]

このリック・ドムも独自改造が行われており、特に固定武装が大々的に強化されている。機体正面にはウインチュユニット、肩にはミサイルポットと機体散布ユニットが装備されている。MSの武装は通常マニピュレーターによって操作されるが、固定化することで一度に多くの武装を併用できるというメリットがある。その弊害として火器管制が複雑化してしまうことが挙げられるが、ベテランパイロットが多いシオン機宛軍においては大きな問題ではないようだ。

この様なシオン機宛軍が使用したカスタム機体の運用データは水面下で情報が伝達され、アクシスなどで新型MSの開発に活かされた。

# 「ええい……。トラップだと……。？」 エリアルドはモニターを見回した。 ヘイズルが完全に動きを止めているのが見えた。

人間が、進化した人口を宇宙に移動させるようになってから半世紀が過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079。

地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がシオン公国を名乗り、

地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。

後に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。

しかし、シオン公国の残党は各地に潜み連邦に対する抵抗活動を行ったのである。

U.C.0083、地球連邦軍はこれらのシオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立。

地球圏の治安維持を担った――

機動戦士Ζガンダムよりスピコンプのオリジナルストーリー第13話。

T3部隊はヘイズルと共に敗れるのでしょうか？

## STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇

ストーリー：今野 稔

メカデザイン：庵野秀明

キャラクターデザイン：野藤卓也

マーケティングデザイン：機動戦機&ヘッパーストック

設定協力：片岡大輔

企画：電撃ホビーマガジン編集部

企画協力・設定：サンライズ

©創通エージェンシー・サンライズ

## EPISODE 3.1

機動戦士Ζガンダム 機動戦機&ヘッパーストック

0083年5月

エリアルドが屋敷に転じようとしたヒーム・ライフルを乗ちながらメインスペーススターを覗かした。加速した体がシートに押し付けられる。

「ライフルのモニター、もうすぐくれば……」

エリアルドは目をやいた。なんとカールグレンが口づかすようにしていった。だが彼はこれらの言葉を聞いたような動きを繰り返す事ばかりしようを拒否した。

「くそ、絶対につかまえる……」

モニターに浮かび上がったターゲットスコップを見つめていた。

「えい……。トラップだと……」

エリアルドはモニターを見回した。

ヘイズルが完全に動きを止めているのが見えた。

トラップ。とていつだったか？

ヘイズルの周囲でキラリと閃光を反射するものが見えた。強い光の影だ。

「ワイヤーか……」

ヘイズルは、電が張り巡らされていたワイヤーのトラップに引っかかれたのだ。

このままではヘイズルは強い電撃でダメージを受ける場所ではない。動きを止めたいカールグレンに助けて、メインスペーススターを覗かした。

「待ていください！ リアリティはワイヤーに引っかかっている！ ワイヤーを切り取りなさい！」

あと歩とどうも、突然ヘイズルが青白い光に包まれた。

「壊れるな！ マーフィーの音が聞こえた！ ワイヤーに電流を流している。こちらのシステムをダウンさせるのだ！」

もちろんヒーム・ライフルのコンピュータシステムは簡単にシールドされている。だが強い電流を流されると、そのシールドもいつまでもつかからない。モジュールというのは精密機械とシールドシステムとの塊だ。

「間や隙の瞬間にコンピュータをやらせた！」

マーフィーが言った。おそろしく冷静な声だった。

電流を流しているのはいつだったか……エリアルドはヘイズルの顔になりつつ、歩調をした。

電撃ホビーマガジン &amp; サンライズ 共同プロジェクト

# ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに



いた三機目の機体。ザクだ。ザクが総機に選んでウイヤーを張置している。エリアルドは、そのザクに向けてビームライフルを撃った。

だが機体はなだた。

ゲルググが右側のモーターの中を横切った。バスターカを撃つ際は撃ち落とした。だが、まだミサイルランチャーを制御している。

「さあ、さあ……」

エリアルドは、ライフルを撃った。当たればしななかった。撃たはなだ。

遂に、遂にザクが壊れる。こちらはマシンガンを撃つてきた。シールドをよられた。

「壊れた」

「マフイーが買った」このままだ、二人もやられる。

その機はまた冷静さを保っている。

「冗談じゃない」

エリアルドは言った。「敵機を見殺しにはできません」

エリアルドは、モーターを見附している。機体のためにビームライフルを撃ちつけないければならない。

モーターに映し出されたエリアルド。残量がある。残っている。

リフトから機体が出て、逃げシールドを壊した。

すでにシールドは壊れてしまっている。

ゲルググがミサイルを撃つ。次々とミサイルが舞い来る。エリアルドは、総機の面壁にきき取っていた。

「機体がつまらなからな」

モーターに機体状況が映し出される。モーターをやられた。機体はなくなっている。

ミサイルはマフイーのヘビースターにも照準を射していた。

リフトの機体がヘビースターの面壁に映っていた。

さらにミサイル攻撃の第二弾がやってくる。リフトの中で機体が見え始める。エリアルドは、はじめた。エリアルドは、クイックスタートのバイザーを下ろした。

クイックスタートのバイザーがなくなっても、クイックスタートの生命維持装置ではばくはもつ。

「くち、地たれ」

エリアルドの顔が暗い。ビームライフルを撃ちまくる。機体はなだ。



敵は攻撃の手を緩めなかった。狙いをヘイズに絞っているようだ。

ガジンを目の前にしているジツ・機體によると、ガジンを倒すとは大きな意味があるのだ。

ヘイズはミサイルとビームの攻撃にさらされている。エリアルドは、動けないヘイズをなんとか守ろうとした。

だが、その努力はむなしかった。

ヘイズの足はひびきだしている。すでにミサイル・タワーや足機、肘や腕の関節部といった比較的脆弱な部分はミサイルの攻撃でとれかかっている。エリアルドのジムは、似たようなありまだ、ヒームライフルのエネルギーもほとんどなくなっている。

「いつら、好き勝手やりやがって……」

突然、カールの声が聞こえた。ヒームゲルグをなすめる。

すると、岩の隙からカールのパイザク・ガラヨルを突き出した。

カールは機體の性能を誇りすぎに、操縦しハイザクを再起動させたのだ。機體を置いていくことしるものに耐えられなくなったのだろう。

「カール」

マーフが再び「一往復を機體しる」と言うたはずだ。

「そんなことをする機会じゃないでしろ」

ハイザクが逃げさしたヒームライフルを撃った。カールのパイザクは、たしかに心強かった。だが、

機體はささく変わってはいない。左腕は壊れている。

今はほろろのジムで、ヘイズの肩にたつては、しかない。しきヒームライフルのエネルギーも尽きた。

次々と襲い来る機體の攻撃の中で、エリアルドは、まじきりと驚きしをいした。

## ■アスワン モビルスーツ・デキ

0088年4月

「ヘイズは、機體の機體に火は入ってるのか」

ノーアスワンを離れ、オーロリー・エリアルドが言った。「すぐ出るわ」

「待てくれ」

メカクスのビート・セルトン言った。「エネルギー・ゲインが70パーセントしかない」

「それだけあれば十分よ」





「ターンのエネルギー残量の表示が満タニを示す。アルファに向けてビームライフルを発射した。すでにアルファはミサイルを撃ちつくしたようだ。最も確率が高い。」

「こちらの増援を見、本利を悟ったようだ。」

「敵は後退を始めた。オードリーがそれを見逃さずとした。」

「深慮するな。」

「マイフリーの声が聞こえる。戦闘は終了した。母投するぞ。」

「了解。」

「オードリー機がビームサーベルでマイフリー機を拘束していたワイヤーを切断した。」

「隊長、スラスターは生きてますか？」

「エリアルが応答した。」

「バグじようか。なんとカスランまでたどり着けるだろう。オードリー機はカール機の砲撃を見てやれ。」

「今や、まともな戦力はオードリーのヘイズル半機機だけだ。エリアルたちはスクラップ同様の機体でアスランを目標にした。」

#### ■コンバットウ 機動隊

2003年8月

「勝手にやられたものだ。」

「アスランの作戦司中、オードリー・メルセ・大佐は、破壊された欠片を見上げて言った。」

「マイフリー小隊のメンバーもその場にはいた。今彼のモビルスーツ運用の指示を受けなければならぬ。」

「エリアルは、大切なモビルスーツをばるるに、した責任を問われるものと思っていた。」

「ペアルセン大佐は言った。」

「まったく、おまえたちは通が強いな。こんな機体で生き延びたのは奇蹟だ。」

「マイフリー隊長は、何も言わず頭を下げをし、またたいた。」

「メルセ大佐は、メガワラのヘンドリック・メスに話した。」

「ヘイズルの機体は可能か？」

「可能な不可能がなくて、やるべきやらないでしょ。」

「急いくれ。ハマーン・カーンの動きに警戒するよう、にジオン機長の動きを注意にさせている。」

「敵艦や船局のそばは軍門外でも、まあモ」





ビルスツのことは任せてもらいましょ」

「たのじ」

破壊されたヘイズルの機には、ヘイズル予備機が立てている。さらに、その機にはツルギが乗っている。ヘイズル大佐は、マフイー小隊のどバリのほうを向いた。

「さて、当面のモビルスーツの運用だが、マフイー大尉にはツルギに乗りこもらう。インター中尉は、ヘイズル予備機だ。マフイー中尉の機体は遠くで知らさる」

「ヘイズル大佐は、二両の機を前に見ていた。よいとお小生の時間か、エリアルドは驚愕した。

「デルタ大佐は、おもしろに言った。

「よくまきで帰ってきた」

「ありと背を向ける、ヘイズル大佐は歩き去った。

「カールがうろとを吐いた。

「なんだが、おもしろい」

「エリアルドも同意した。

「エリアルド」

「マフイーが言った。

「はい」

「なぜ指示に従わなかった。戦場で、俺は離れろと言った。だが、おまえは離れなかった」

「隊長を助けてあげないでください」

「犠牲は少ない方がいい。戦場の原則だ。覚えておけ」

「エリアルドは、納得できなかった。だが、上官に逆らうことは許されない。

「わがやりました」

「おまえは、おまえのし、マフイーはうなずいた。そして、付いた。

「……以上は、おまえの、本音を言おう。おまえは、カールは命の恩人だ。死んでも忘れん」

「マフイーが格闘の出口に向かた。エリアルドは、立ちどくした。おまえの背中を見つめていた。

EPISODE  
END

NEXT EPISODE  
NEW  
FACE

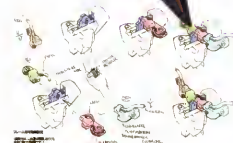
## RX-121-2 ガンダムTR-1 [ヘイズル2号機]

## ③ユニバーサル・スラスター

③つのユニバーサル・スラスターと中央の巨大なファン・ブラスターで構成される推進系ユニット。ユニバーサル・スラスターとバックハックをつなぐ可動フレームにより、強力な推力の自在なコントロールが可能となっている。このような駆動フレームの自在な機構が、後にムーバブルフレームを生み出す礎となる。

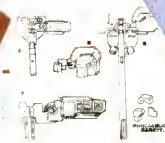
## ④可動フレーム

この部位は、骨格部があるにも関わらず「ポイント」ではなく「可動フレーム」と呼称される。



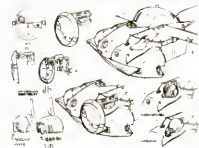
スラスターユニット  
ファン・ブラスターユニット  
ユニバーサル・スラスターユニット

トライ・ブラスターユニットの構造配置を常態的に示すことができる。



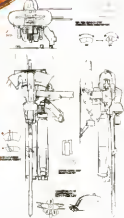
トライ・ブラスターユニット  
ユニバーサル・スラスターユニット

ジオン軍移装との戦闘により中破した高機動型ジム改に代わり、エアリアルドが搭乗する機体。これまでガンダムTR-1 [ヘイズル] のパーツ交換用の予備機としてアスワンに配備されていた機体であったが、バージョンアップした際に軍のデータベースに再登録が行われた。これにより [ヘイズル] と同系列の機体として「RX-121-2」の型式番号と「ガンダム」の名称が与えられることとなった。通常、このような機体の再登録には複雑な手続きと多くの時間が必要となるのだが、ティターンズの持つ軍内部での権限の厳格さが、この短時間で再登録を可能とした。この異例ともいえる型式番号の再登録については、パイロットを務めるエアリアルドの強い要望があったようである。



NRX-044(R)  
試作アッシャー  
TR-3[キハール]

量産機のため、同のようなスライダ機構が多数設置されている



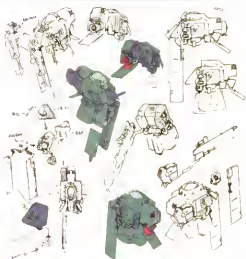
MA形態時には 3本の巨大なプロ  
ペラントングラスターが同一  
方向に振り、大威力を発生させる。

量産時にはランディン・ギアと  
同じ設計を採用し、機体を保持する。

NRX-044アッシャーは連邦軍が開発を進めている大気圏内飛行能力を持った可変モビルアーマーで、ドライなどのサブ・フライト・システムを必要とせずに、単独で飛行可能な機動兵器として、連邦地上軍から熟望されている新鋭機である。この機体開発にあたり能力下では可変システムにかかる負担が大きい。まずは負担が少ない軽量力(宇宙空間)でのテスト用に試作機が製作された。この簡易的な新兵装に目を付けたティターンズが、なかば強引に試作機を接収し、独自の改善を加えて完成させたのがTR-3[キハール]である。その可変システムはギアやシャフト、シリンダーが複雑に組み合わされ機体の骨格ともいえるフレームを形成している。この可変フレーム技術が量に発展し、ムーバブル・フレームを生み出すきっかけとなる。

## 【ザクーシュトゥツァー】

一年戦争時、ジオン軍を代表する量産機であったザクも、この時代においては旧式機の代表格となっており、連邦軍が次々と実戦投入する試作機や新鋭機に対抗するため、ジオン残党軍ではザクの性能強化のための改造が盛んに行われていた。0083年の「デラース紛争」においてデラース・フリードが使用していたMS-21 CDラッツェは、ザクを高機動特用MSへと再生した好例といえる。ここで紹介しているザクⅡの改造型は、この経路の独自装備であるウインチュユニットと、ゲルググ用のビーム・ライフルを胸部に固定装備することで、戦闘力の強化を図っている。



高機動性によりアーム・パーツを射出する高機動ウインチュユニットは、ニュータイプではない一歩パイロットでも扱える兵器である。ワイヤーをからめて敵機の自由を奪ったり、近隣の化装からレンドグラウンドを敵機の背後に侵下したりと、近接戦域でのゲリラ戦術に長けた装備となっている。



機動戦士Zガンダム Volume 1  
3,580円(税込) 49分

# 機動戦士Zガンダム MOBILE SUIT GUNDAM DVDカタログ

このページの商品の販売先はすべてパンティビジュアルです。

お問い合わせ先:

パンティビジュアルお客様センター

TEL.03-5828-7882(初回日、年末年始を除く、月～金曜日10:00～17:00)

パンティビジュアルホームページ <http://www.bandvisu.co.jp/dbeet/>

本書の中でも「機動戦士Zガンダム」のダイジェストストーリーは紹介しているが、やはり一年間放映したTVシリーズだけあって、簡単に内容の把握をするのは難しい。このガンダムシリーズ屈指の多勢力バトルを完璧に理解するには、やはり全50話を観るしかない! ということで発売中のDVD全13巻を紹介しよう。全部観れば、よD.A.O.Zを楽しめるようになるはずだ。

各巻4話収録(1巻のみ2話収録)



機動戦士Zガンダム Volume 5  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 4  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 3  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 2  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 9  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 8  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 7  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 6  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 13  
6,300円(税込) 102分



機動戦士Zガンダム Volume 12  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 11  
6,300円(税込) 97分



機動戦士Zガンダム Volume 10  
6,300円(税込) 97分



## STAFF

原作 高野由悠季・矢立肇  
 ストーリー 今野 敏  
 メカデザイン 藤岡健機  
 キャラクターデザイン 野島卓也  
 マーキングデザイン 藤岡謙助&ベッパースト  
 設定協力 片岡大樹  
 企画 電撃ホビーマガジン編集部  
 企画協力・設定 サンライズ

©新機エージェンシー・サンライズ

## EPISODE 31

■リトルバイトの脱走 アスワン編内

0005年8月

「もうかえよ、モロ……」カールが言う。「出撃するたびにばうばうになる。帰ってこられる保証なんてもとにもない」

言葉とは裏腹に、口調はのんびりとしている。他人事のようなだ。

メカ・アクトたちはほとと夜不眠不休で機体の再構築と補修を続けた。その間、テストパイロットのリアルドたちはしばしの休息を取ることができた。

メカニアのオードリーは、ずっとメカ・アクトに付きまわっていた。実際、オードリーの知識と技術は、メカ・アクトたちにも習得されるようになっていた。彼らの努力のおかげで、ようやく機体がそろい、アスワンはコペイトウを出発した。新型モビルスーツ、アジマーのテストが目的だった。

アスワンがテストのための軌道に達するまでまだかなりかかる。リアルドとカールは、レクリエーションルームで時間をすごしていた。

「おまえが、俺がこいるとは思わなかったよ」リアルドはカールに言った。「いつも自信たっぷりだから」

「本当に自信があるやつは、そんな態度を取らない。ア・フー隊長のように、決断と任務をこなすんだ」

「ああ、さうだろうな」

「おまえだって俺にさうだろう」

ティターンの顔として、戦闘が怖々などとは口を封けても言いたくなかった。だが、カールには言ってもよかった。カールだけではない。ア・フー小隊のメンバーには本音を話すことができる。

同僚がともに死線をくぐり抜けた。最初は、ティターンの勝利をかけて戦っていた。今では、

# ADVANCE OF Ζ

ティターンズの旗のもとに

人類が、増えすぎた人口を宇宙に移転させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079。地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り、地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。後に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。しかし、ジオン軍の残党は各地に潜み連邦に対する抵抗活動を続けたのである。U.C.0083、地球連邦軍はこれらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立。地球圏の治安維持を担った……。

「機動戦士Ζガンダム」よりスピンオフしたオリジナルストーリー第15回。  
新しさを重んじたT3部隊は完全訓練に没頭。

「ヘイズルの推力に戸惑いました」  
「ガンダムの名前は伊達じゃない。ジムとは違うんだ。  
作戦宙域まで移動する。キハールにつかまれ」

で前進しようとしたキハールは、強烈なGを

カタルドに受けて出されたリアルトのヘイ

ズルを前に、壁の薄さを感じた。

エリアルドは、ガンダムに乗り込む喜びを感じて

いた。ガンダムは連邦軍の象徴で、ティターンズ

カタルドに送られたガンダムは、そのままだけに

その栄光を感じている。

カタルドの機体を利用して、最小限の推進用

で前進しようとしたキハールは、強烈なGを

ティターンズよりもマフイー小隊にいたこと

に勝つを感じた。勝つだけではない。もっと大

切なものを感じた。カタルドと同じだ。どう

だかこそ、決してまたとは話さないようなこ

とを、エリアルドに話しているのだ。

「新しい」エリアルドは言った。「30分ほど出

撃を待つときは、実際にがたがた動いている。

だから、戦場に出ると何か違ったものを感じる」

「なんだよ、その何が違うものって……」

「想像かな……」

「視線？」

「そう。フロントにあるアスロンのクルーたちの

視線。主としているオードリーの視線。そ

して、敵の総指揮官、陸軍の司令官の視線……

そんな感じだ。誰かが俺を見てる。そんな美

感があるから先に眠る」

「へえ……。おもしろくて、ニュータイプかもよ」

「ニュータイプ？ そんなのどう死んだよ」

「戸口マフイー隊長とオードリーが姿を見

せた。エリアルドとカタルドは立ち上がった。軍人

の規律がすでに身に付いている。

「モビルスーツで待機だ」

「マフイー小隊長が言った。」

「了解」

カタルドがこたえる。レフリーエンコンルーム

を出るときオードリーがエリアルドに囁いた。

「何の話をしたの？」

エリアルドの代わりに、カタルドが言った。

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」

「勇闘士の話さ」



感じた。体シートに押しつけられる。

目の前にモビルスーツ形態のアプシマが迫っていた。

エリアルドは、肩のストラップで衝突を避け、大とした。その瞬間、横からも激しいGがかかった。バラスを失いかける。

アプシマに集まっているマフイー小隊長の声が聞こえてきた。

「なんだなんだ、動かしやあるまいし」

「ヘイスルの推力に戸惑いました」

「ガンダの名前は伊達じゃないジムとは違ってた。作戦地域まで移動する。キハールに付かま」

カールのジムスナイパーⅡはすでにMA形態のアプシマに片手も休まばっている。エリアルドは推力を絞り気味にして慎重に近づき、アプシマに近づいた。次の瞬間、力強いアプシマの加速を感じた。

#### ■コンバインドの付近 0088年8月

アプシマがモビルスーツ形態に変形した瞬間が、戦闘開始の合図だった。

マフイー小隊長のアプシマ、カールのジム、スナイパーとエリアルドのヘイスル2号機を相手にする。

エリアルドはアプシマの姿容の速さに驚いた。モビルスーツとモビルスーツをいっしょにするなど、所詮どこかに無理が生ずるだろうと思っていた。

しかしその変形の過程は滑らかで、ほとんど瞬でもモビルスーツからモビルスーツへと変化を遂げた。

その驚きが隙を生んだ。

アプシマがライフルを撃ってきた。エリアルドは、あわて肩のストラップを使った。

またしてもヘイスルの推力をもてあましてしまった。横から大きなマフイーで睨りつけられたように感じた。



「なぜ加速だ……」

思わずエリアルドはつぶやいていく。

「回り込め、カールの声が聞こえてきた」「何の  
ための加速動力だ」

「……なんだ」

エリアルドは、バックパックのメインエンジン・スター  
を噴かし、今度は、巨人に飛躍はされたよ  
うに感じる。全身の血が背中のほうに持つて  
行かせるようだ。

「ヘイズルの加速動力をもてあましてくるな」  
「マフイー小隊長の音が聞こえてきた」「フロント

ロールできないマフイーは、己を制限すだけだ」

わかっている。

エリアルドは、心の中をきつた。

「コトロールしてやるさ、ちよと」と、断言した  
だけで。

加速に慣れればどういふことはない、エリ  
アルドは、このクワシーのテストの最中にヘイ  
ズルを喰いこめるようになることを決めた。  
カールのジム・スナイパーが渾身を懸ちはじ  
めた、90度様に展開したエリアルドもラッフル  
を撃ち始める。

「動き回れ、カーがきつ、アスガが動揺してる」

エリアルドは、推力を絞り、素速に動いていく。  
だが、それでは何にもならないと気づいた。無  
きリズミスターを喰かして、動き回らなければヘ  
イズルを喰いこめなれないとはならない。

じゃあ、あの機体に振り回されるなら、エリ  
アルドはラッフルを撃ちつけた。

カールもロングレンジ・ラッフルの特徴を活か  
して、なんとカー・シマを捉えたとしている。  
マフイーのラッフルは、二本の火筒を紐々と  
かわし、いく。まるで、モビルスーツの機動力は、

こう使つたといふばかりの動きだ。

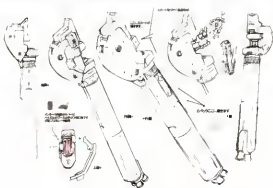
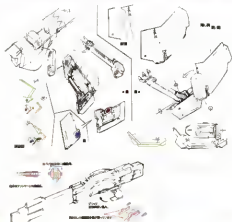
さすがに、エリアルドはもう悪いながらも、  
悔しかた、学ばないわけではなのだ。追いつ  
かなきゃ……。

エリアルドは機を喰らっていた。

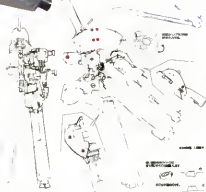
EPISODE  
END

NEXT  
EPISODE

THE END OF "G"



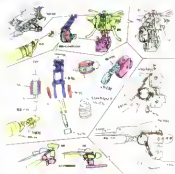
左、右の上下の図では各パーツの位置と変形機構がよくわかる。下の図ではハックバックの機構が確認されている



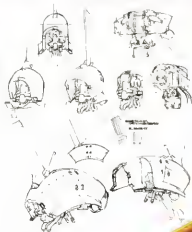
側面図。ヤリのようなアール・スタビライザーが特徴的である。試作機であるため機体中化が十分ではなく、特に肩関節から見ると腕や脚の付け根部分のフレームがむき出しであるのがわかる



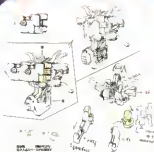
可変モビルアーマーのメリットは、モビルアーマーの機動力とモビルスーツの汎用性を併せ持つことで、状況に応じて双方の利点を最大限に発揮することができることである。しかし、変形を実現するため、強度を求められる機体フレームに成形のための可変機構を施さなければならない。技術的にフレーム強度を維持することや可変機構、機上の武器の増設といったことが、MFV-044試作アッシャーマーはこの問題を克服し、MA形態からMS形態への変形を演進した初めての機体である。これは一連戦争経験後、連邦とジオンの技術が融合して機動兵器の開発が一定レベルの技術的成熟を遂げた結果と見える。しかし、可変システムはまた手さぐり試行の設備であり、その開発を100パーセント実現するには至っていない。試作アッシャーマーのMS形態も、機体にあたるパーツはプロヘラントタンクとスラスターを組み合わせた推進ユニットとなっており、モビルスーツと異なり切るのにはまだ無理がある作りとなっている。



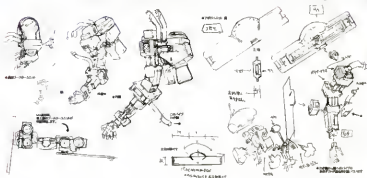
NRX-044(R)  
試作アッシマー  
TR-3[キハール]



後の量産機にも継承される特徴的な顔面ユニット。センサーシステムにはモノアイ方式が採用されている。



胴体ハープの構造型M形状態時には胸部パーツとなるランディング・ギアの接合状態や、首・胸などのハープ接合部の位置がわかる。



脚部推進ユニットを下方に向けた  
人形は、歩行時には両足の間に機軸的に滑り



ガブリエルは言った。  
「アクシズが俺たちの未来だ」  
カザックはしばらく何事か考えている様子だった。  
やがて、彼は言った。  
「俺たちは、いったい何度  
負け戦を経験すればいいのだろうか……」

人類が、増えすぎた人口を宇宙に移転させるようになってから本世紀が過ぎた宇宙世紀(U.C.)0078年、地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3が(U.N.公衆)を襲む。

地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。

後に「一年戦争」と呼ばれるこの闘いは、地球連邦の勝利に終わった。しかし、ジオン殲滅を目標に地球連邦に対する激戦烈戦を行ったのである。

U.C.0083、地球連邦軍はこれのジオン殲滅の計略を目的とする特殊部隊「ガンダム」を独立組織の治安維持を目的と

↑機動戦士Zガンダム↓よりスピノブしたオリジナルストーリー第17話。  
T3部隊とジオン残党軍とのリターンマッチ。

## STAFF

原作：宮野由悠季・矢立肇

ストーリー：今野 敏

メカデザイン：藤岡雄飛

キャラクターデザイン：藤原卓也

マーキングデザイン：園岡雄哉&ペッパーショップ

釐定協力：片岡大輔

企画：電撃ホビーマガジン編集部

企画協力・設定：サンライズ

©制作エージェンシー・サンライズ

EPISODE 3.3  
第33話 格闘王 0

サンシバル 格闘家 0085年10月  
解かだつた。

現在、ザンジバルは月と地球のラグランジュ点の二つの軌道上にいた。サイド1とサイド4がある間隔軌道だ。

メイエンジンを停止し、三〇二群が速る同  
間軌道に乗っていた。その同軌道内にあるソロ  
モンへ、最終近するのを待っている。

運判王は、「ゴズバイト」と呼ぶ。だが、ジョーンズの粉粒だったカプリエル・ソムにとっては、ソロモン以外の呼び名はあり得ない。

「われわれに残された機体はこの三機だけになつた」

ガブリエルの隣に立っているカサック・レーンが言った。砂色の髪、砂色のふきふきした口髭をはやしている。その髪や髭には白いものが目立つ。

二人は三機のもヒスニックを見上げている。ザクとドム、そしてゲルググだ。その三機も、ガブリエルやカザック同様にくた

ある。雄漢は間に合わせに見えた。雄漢がはけて  
全羅道が顔を出していると、乃もある。

ダクトには、つぎはぎの跡すらあった。モノアイの  
カバーには、微細な傷が無数に入っている。

しなくてはならぬが、それも限界に達していた。

「ナイターズが、サイド7内に前線基地を作ったという情報がある」

カザウタ・ラーソンは言った。  
ガブリエルはうなずいた。「コロニーにいるシンバ  
サイザーからの情報だ。」

「グリブとよ呼ばれている。ききな臭い動物だ。なぜあんな辺境の地に基地を作る必要があるんだ？」

「連邦軍の方面隊の中でもルナツー方面隊は手

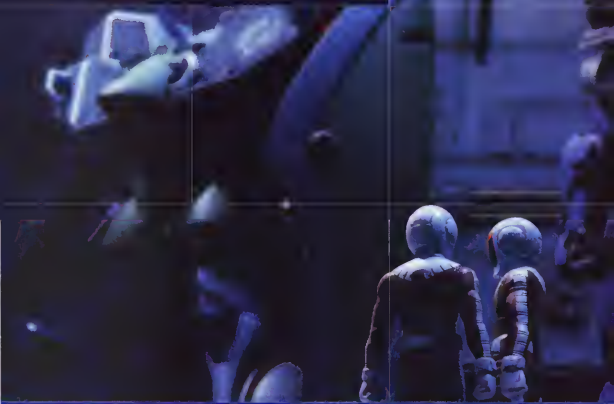
「スノイド率上主義の活動を押し進めるつもりかもしれない」

[illegible]「ディターンズは、急速に勢力を拡充しようとする」  
ラーソンが言った。「彼等した連邦軍にあって、

電撃ホビーマガジン &amp; サンライズ 共同プロジェクト

# ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに



ティターンズだけが意気盛んだ」

「そうは言い過ぎだ」

「そりゃもうなんやうへ今の連邦軍の主任海兵は口二丁船長の権威と手裏の大博打なんだから」

「軍事機密は破壊された」口二丁の再建が急務だったからそのシロ公園でやるサイドだけはその設備とツバハラを持つていたので、破壊されたコロニーはサイドに移送され再建されてから各サイドに送り込まれた」

そこに「アラバ」大の反乱が起きた。ジオン残党が簡単に移送中のコロニーを奪取してしまつたのだ。「アラバ」の反乱は、連邦軍はその事態を掌握し、コロニー移転を軍の任務としたのだ。もう一つの問題は、船員によつて各管域に散乱していった破片砕けたデブリと呼ばれる宇宙ゴミは漂つてくるわけではない。太陽や地球や月、そしてラグラジポイントの引力のせいで、高速で軌道を変へて回っているのだ。

それが、重大な事故を引き起す。その二つの衝突でデブリが沈んだという事故もあった。そのために、連邦軍はデブリを回収する大規模作戦を展開しなければならなかった。

連邦軍がその二つの作業に、かなりの戦力を割かれているのは事実だ。当然兵士たちの士気も下がる。

だがティターンズは違う。ジオン残党狩りという大義名分のもと、堂々と軍事行動を続けられるのだ。

「おままだいしと戦てく何年になるかな……」カザクが言った。カプリエルは、ザクも上げたままさんだ。

「それは問題じゃない。大切なのは、この先何をしていくに戦うかだ」

カザクがきくと溜息をついた。

「未来があると思うか？」

カプリエルは、うなずいた。

「あー」

「どうなの？」

カザクはしばらく沈黙を考へている様子だった。

「俺たちは、いよいよ何処まで戦を継続すればいい」

のだろかな……」

■ソロモン 00225年10月

ダンジバルが加速して、ソロモンへの侵入軌道に  
乗った。

「アノキ」

ガブリエルは、ドムのコクピットから呼びかけた。隣には、カザックが乗り込んだダルググがいる。そして、その後ろにはカザックの部下、シューターのザクがいた。

ザクの操縦桿の表面はすでにすり減っている。キニターにもところどころ、わずかに暗い部分がある。それでも、ガブリエルはこのコクピットにいると自

信がみなぎってくるとは、何を感じたか。

「ガンダムを破壊して、ソロモンをわが手に取り返す」

それは、むなしいフロバガンタに過ぎない。だが  
今のガブリエルたちには必要なものだった。

ガブリエルのドムは、このまゝの海へ出た。

戦間はずくに始まった。敵のアレキサンドリヤ

から二機のもビルスーツと二機のもビルアーマーが居ていた。もビルアーマーは、識別不能なジョン・残党のコンピュータには登録されていなかった。ガブリエルは言った。

「三対三だ」被れを取るな」

■コンベイトワグ近 0085年10月

「カール、操縦しろ」

「マーフィー小隊長の聲が聞こえた。『エリアルド  
前へ出るぞ』」

〔字義〕

エリカは、M形露のデジター・キールについて加減した。飛躍はされるような旨を感じる。だが、このじやん馬のヘイズルを馬場にもうやく慣れてきていた。慣れてみれば、この推力は頼もしい。雌の先頭は下駄だった。

「旧武め<sup>ふるぶり</sup>……時代が違<sup>ちが</sup>うんだよ」

エリアルドはつぎやき、ロックオンしようとした。そのとたんに、コクピット内に警戒音が鳴り響く。

逆にロクッオンされたのだ。

エリカルドは慌てずにサイドのクラスターを喰かした。したたかな懐からのGがかかり、ヘイズル2号機は右方向に移動する。その目の前にザクが飛び出してきた。

「正氣か？」

エリアルドは、ヒムムライフルを撃った。至近距離だ。外れるはずもない。ザクは直撃を食らった。バ  
イロツトはひとたまりもなかったろう。

「ええい、胸が邪魔だ」

マーフィー小隊長の聲が聞こえた。見ると、マーフィーのキハールはMS形態となり、ドムとゲルダグを相手にドラッグフライトに入ろうとしている。



エリアルドはバクアクラブに向かったそのとき、急激に上昇するハールを二タリに撃つた。長く突き出した脚部推進二ツドが鋭く回転して、ゲルグクの胴体に叩きつけられた。

ゲルグクの副部主ターニツドが吹っ飛ばされた。まじい衝撃の衝撃を喰ひついでいた。その一撃で、ハールは三本の脚部推進二ツドをすべて失って失った。ゲルグクも破壊を食った。

ドムの動きが停まっていたエリアルドは、敵のマフイーの進路を照準していた。

「名を聞こう」

「地球連邦軍タイマンズテスト小隊、ウズマ・マフイー大尉。お前は誰？」

「ジオン公国軍、ガブリエル・ソラ大尉。編と命があれば、また会おう」

ドムは高速のガスの軌跡を残してザジバルに引きつけていった。

#### ■コンバイトウ内 機動隊0018年10月

「ハールの修理が終わった」

オスト・ヘルゼン大佐が言った。エリアルドたちテスト小隊のメバーは、その機体を見上げていた。たしだに、ハールはただか、どこか印象が違っていた。エリアルドは思った。

「キハールの軌跡上でのテストは終了する。あとは、大空闘内のテストを待つのだ」

ペテルセン大佐は、底意な笑いを浮かべて付け加えた。「マフイーが言うことを聞かぬ部分の修理も必要だ……」

マフイー小隊は、何も言わずに去った。

「マフイーは、このハールに受けてもらうことで、思い通りに動かすことで、反動が弱くなっている。全体に軽量化をはかり、スラスター推力も上げても、何よりの利は、コシロッド。新たな球形の全周型スラスターシステムを採用しよう。これは新しいガンダムなんだ」

ペテルセン大佐が言った。

「これは現時点での最高性能だ。初代ハールの戦闘データをライトすることで、反動が弱くなっている。全体に軽量化をはかり、スラスター推力も上げても、何よりの利は、コシロッド。新たな球形の全周型スラスターシステムを採用しよう。これは新しいガンダムなんだ」

ペテルセン大佐が言った。

「型式番号はRX-121-1。正式名称はザダム、ペテルセン大佐が言った」

「型式番号はRX-121-1。正式名称はザダム、ペテルセン大佐が言った」



「ヘイズル改だ」

■コンバット付近 0088年10月

エリアルドはマフイー小隊長のヘイズル色に続いてアスワンからカバルト発進し、

高機動のヘイズルを機より、さらに機体のイージはシャープにまで削りこんでいた。さうとこの機より機体だけに違いない。エリアルドは思った。アスワンを出るとマフイー小隊はヘイズル改を元陣に、編隊を組みだ移動していた。

「どうです? 隊長、ヘイズル改の感想は?」

カールが尋ねた。興味津々の様子だ。無理もない。思えばエリアルドにはヘイズル改の機が与えられ、マフイー隊長はヘイズル改のアンシャマー、そしてヘイズル改と機体を手交すまでも。

機よりも好奇心旺盛なカールが、ずうとラムスナイパーに集っているのだからいろいろと言いたことがあるに違いない。エリアルドは思った。

「悪くない」

マフイー小隊長の声が聞こえてきた。「この金魚鉢みたいなマフイーも、慣れれば使いやすいだろう。だが今は、機で半信に飛び出されたような気分だ」。全主戦士とリニエシートは聞かされたばかりで、アスワン配備機で整備されたのはヘイズル改が最初だ。

それは、モビスウィツの世代が変わろうとしているのを意味する。一年戦争時代のモビスウィツが、デノロイとはどうやら違っている。

重なるアンシャマーは、その機体もまた、デノロイのスト小隊にいた。その機体のテクノロジーに、先づに慣れようか。

新しい技術や新兵が常に安全とは聞かない。テストパイロットは、危険と背中合わせで最新機のもろヘイズルを駆るのだ。エリアルドはそれを誇りに思っていた。

アスワンに帰投すると、すぐにオリドリ・ゲルンできた。

「隊長、新しいOSの機体はどうでした?」

エリアルドは苦笑した。オリドリもカール同様、興味津々らしい。マフイーはたまに。

「安定している。機体にもツアしているし、戦闘データの蓄積が増加している。データベースからの参照時間も短縮されているよう(機体だ)」

オリドリは満足げに、彼女は言った。





「近い将来、すべてのモビルスーツの主力には全  
天向型が採用されるでしょう」

「ああ」

「マフイーはこえた」それも僕たちのジストの  
データにかかっている」

#### ■コンバートの内 0086年2月

「ヘスル改のテストも順調に運び、新たなデータ  
がどんどん蓄積されている。エリアルドたちはコ  
ンバートで新しい年を迎えたサイド1、サイド2、  
そしてコンバートの同じ同軌軌道を回っている。は  
ずれた新年を迎えた」

「エウーゴが、戦力を整えようという情報がある」  
とあるのは、オットー・ペルセン大佐がブリーフ  
ングで言った「やらのバグには、財力がついて  
おり、今や、無敵でない軍力を誇っている」

「エウーゴとタイタースの小隊がいるはずだ  
に聞かっていた。エリアルドたちが戦ったザジバも、  
エウーゴの戦力と見ると十分である」  
「エウーゴは、戦後の秩序を維持しようとするタイ  
タースの敵であるばかりでなく、平和を脅かす  
デウス・軍団がジスト殲滅の勢力を取り込んで  
いることも、それは明らかだ」

「ヘスルセン大佐は聞いた『戦々タイタースは、  
決してデウス軍の活動を許さない』地理を学んだ後  
まじいぞうの勢力を保持する」

「ブリーフングが終わり、解散するとオードリー  
がエリアルドとカールに言った」

「最近、ネッドと妙な噂が流れているんだ」

「妙な噂？」

「まだ第2ジスト再興の準備的な活動を始めるこ  
う……」

「カールは、ちゃんと聞いて笑った」

「ジストの殲滅あたりが済んでいるさだろう」

「でも、最近、なんでも世の事がきこいね」

「オードリーの言うように、エリアルドは知らない、  
そのときジスト殲滅の小隊が食いだてではない、  
本物の疑問の準備を推している」

EPISODE  
END

NEXT EPISODE  
TO BE  
CONTINUED  
Vol.3



ガンダムTR-1「ヘイズル」は、ウェス・マフィー大尉が乗る、ティターンズ・テスト・チーム「マーフォー小隊」の陣営機である。ジオン軍施設に「ガンダム」が与える心理的効果の検証とMS最新技術試験のために、ティターンズが試作・建造したテスト機で、1号機はコンバット近海の増援圏域におけるジオン軍機との戦闘で大破した。そこで、コンバット方面軍に配備されていたジム・クゥエルと、アスランに預けられていたヘイズルのスベア・パーツによって修理・改修が施され「ヘイズル改」へと生まれ変わった。

#### ① 「ヘイズル改」の構造

機体バックパックに取り付けられたブースター・ガード。可動式のフレームでジョイントされているため、前方にあっては自在な可動が可能であり、ベクター・スラスターとしてヘイズル改に高い機動性を与えている。また、「機体改修」時には、3枚目のシールド・ブラスターのジョイントとしても機能する。

#### ② 腰部

ヘイズル改の腰部に設置された十字状のセンサー・ユニットには、メインカメラをはじめとする各種センサーが内蔵されている。センサー・ユニットは、前後に交差が可能な作りになっており、必要の場や状況内によって簡単にユニットを取り替えることができる。

#### ③ 胸部

マルチ・フレード・アンテナとデュアル・カメラを搭載した、いわゆるガンダムタイプの腰部ユニットである。ヘイズル改のバックの中、最もガンダムを強く影響させるパーツである。各種センサーや使済みのセンサー・ユニット用のジョイント機構が詰まっているため60ミリバルカンがオモミとされている。

#### ④ 腹部

元のジム・クゥエルではインテークがあった部分に取り付けられているパーツ。新機体機は機体下部にあるものと同様の形の側面アクチュエーターが内蔵されているため、機体の強度は確約されている。また、「機体改修」時の機体改修用の「ダブル・ボム・ディンク・クリップ」も、このユニットに内蔵されている。

#### ⑤ 大腿部

腰部ユニットのメイン・カメラ、デュアル・カメラに続く第3のセンサーシステム。通常は補助センサーとして使用されるが、腰部ユニットが破壊された場合には、このサブ・センサーがメインのセンサーシステムとして機能する。一年戦争以降のMSには、このようなサブ・センサーを搭載した機体は多く見られる。

#### ⑥ 足部

機体全高にさまざまな効果、効果を与えているヘイズル改であるが、腰部ユニットはベースとなったジム・クゥエルのパーツがほぼそのまま採用されている。これはジム・クゥエルの腰部ユニットの完成度が非常に高く、これに改良の必要がなかったためである。

旧型ヘイズルからヘイズル改への改修の際、コアユニットは主たるモーターとリニアシートシステムに実装されている。これによってヘイズル改は、より安定したMSに近しい機体へと変化した。なお、この改修の際にコアユニットは上部にオプションパーツで機体の多岐方向移動が可能にされている。

#### ⑦ Eユニット

T3部隊の共通装備であるEバック・ホルダー。旧型ヘイズルは、シールド・ブラスターを装備すると両側のハード・ポイントが空っぽになってしまうため、機体左右のハード・ポイントにEバック・ホルダーを装着していたヘイズル改はこの機能を引継ぎ、機体の左右にEバック・ホルダーを装着している。

#### ⑧

ヘイズルの専用装備であったシールド・ブラスターはジオン軍機との戦闘で破壊されてしまったため、現在ヘイズル改は非標準型として一般的に使用されている最新タイプのソールドを装着している。このタイプは一年戦争前から普及し始め、現在では六角形のソールドとそれに多くの機能で構成されている。

#### ⑨ 機体改修

フックハーフ部分に搭載された強化バリア、スラスター・ユニットとして暮らした機体のバック・エンジンが内蔵されており、機体の前後方向に機体ごと動いている。フックハーフ部分にはプロパellantタンク、定常のスラスターと合わせて、ヘイズル改の機体の半分は機体で構成されている。

#### ⑩

機体強化パーツの1つに指定されているスラスター。フックハーフ部分のスラスターが主に機体で使用されるもの。このスラスターは主に近距離戦に使用されることが多い。ヘイズル改の機体の能力を高めるには、これら3つの機体強化パーツが必要となる。

#### ⑪ コアユニット・アーマー

定常の機体を守るための「アングル・ジョイント・アーマー」である。このユニットの中には最新型のアーク・ユニットが内蔵されている。機体改修や機体（フル・アーマー）の機体改修に用いられるように、アーク・ユニットは機体改修に使用されているため、ユニットは機体改修の機体改修に用いられる。

#### ⑫ 足部

ヘイズル改のソールド（足の部分）の機体改修は機体改修よりも優先度が高く、機体改修に用いられる。これはフル・アーマー機改修の機体改修の際、機体改修の機体改修を分業させるための改修である。宇宙軍もソールド・ブラスター改修には多少の予算が不安定になるため、大きなソールドは機体改修などで成立している。

## RX-121-1 ガンダムTR-1[ヘイズル改]

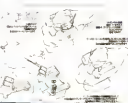
ヘイズル改は、ジオ軍残党との戦闘で大破したマーフィー隊長のヘイズルを、コンベイトウに整備されていたジム・クゥエルのパーツと、アスワンにストックされていたヘイズル用の予備パーツで修復した機体である。このヘイズル改には、初代ヘイズルで蓄積された実験データと機体開発のノウハウが盛り込まれており、「後付け感」が強かった機体各部の強化パーツは、内部構造や他のパーツとのバランスが再検討され、MSとしての完成度が高められている。その結果、外観はより統一感のとれたフォルムとなり、軽量化やスラスターの出力強化によって推進力は約10%ほど向上している。また、コクピットには研究が進められていた360°全天周モニターとリニ

アシート・システムが試験的に導入され、OSもバージョンが更新されたため、機体の操作性は初代ヘイズルから大幅に進歩している。ヘイズル専用装備のシールド・ブースターは、先の戦闘で失われているため、残念ながら現在ヘイズル改にはノーマルタイプのシールドが装備されている。シールド・ブースター損失による機動力の低下は否めないが、ヘイズル改のトータルの性能向上上、それを補って余りあると考えるだろう。

ちなみに、ヘイズル改の型式番号はエリアードが乗るヘイズル2号機に「RX-121-2」のナンバーが与えられたことから、この修復機に「RX-121」から「RX-121-1」へと切り換えられ、呼称もヘイズル改へと変更されている。

前面のシールドは初代ヘイズルよりもスリキリとした印象を受ける。機体カラーはディターンズが通常プラスト機に使用するグレーを基調としたものに変更されている。

両肩のフォルディング・グリップは機体当初のみにしか使われていないが、通常形態時にはグレネードランチャーなど各種オプション装備への操作が可能となっている。



ヘイズル改の機体には、オプションパーツの開放使用による自己リペア・ユニットの取り付けられるようになっている。



前面のシールドを撤去することになったヘイズルも、次世代機用のリペア・ユニットなどのため、機体のコクピット・ハッチ上段と膝関節に強化パーツ取り付け用のネジのランチャが埋設されている。



バリエーションを作る。

# RGM-79Q GM QUEL [HAZEL HEAD] TRI BOOSTER UNIT

BANDAI 1/100 scale plastic kit

"MASTER GRADE"

RGM-79Q GM QUEL

modeled by Nobuyuki Sakuraback

[BACK PACK]

Toshio Iwata(GM QUEL)

この機体はガンダムTR-1[ヘイズル]の  
交換パーツ用の予備機としてアスワンに  
配備されたもので、通常戦闘への参加は  
想定されていない。

Episode 3.2では、あくまで機體戦が  
目的であるため特異的に出撃が許された。

テスト用に整備しているヘイズル用

トライブースターユニットは

シールド・ブースターを装備しない

ミッションの際に、ヘイズルの推力を

補うために開発されたものであるが

中央のシールド・ブースターが

大きすぎるため

機方向への機體の際に予期せぬ

モーメントを発生することがあり

ヘイズルへの影響は見送られている。

パイロットは

マーフィー大尉ではなく、

エリアルドが搭めた。

# T3部隊の武装

## RGM-79SR GM SNIPER III (CANNON PACK TEST TYPE)

BANDAI 1/100 scale plastic kit "MASTER GRADE"  
 RGM-790 GM TYPE-C  
 modeled by Mitsuki Misaki(BACK BACK/  
 Plus Sanyama/GM)

長距離支援用のジムスナイパーⅢに火力強化のための中距離支援用のバック・パック・ユニットと、通称「キャノン・バック」を装備した仕様。キャノン・バックを装備することで機体の重量アライメントが崩れ、ジムスナイパーⅢ本来の機体は運動性は損なわれてしまうが、代わりに火力は大幅に増強される。この当時、キャノン砲はビーム・タイプが主流であったが、ジムスナイパーⅢは高出力のロングレンジ・ビーム・ライフルを装備しているため、ジェネレータへの負担を考慮してキャノン・バックの火口は実体弾タイプが使用されている。



# ヘイズル予備機の トライ・ブースター・ユニットを作る。



Episode 29において、  
エアリアルが機体転で使したヘイズル予備機は、  
ノーマルブースターではなく、機体を単純化した  
トライ・ブースター・ユニットの実験を行っていた。  
このオプション装備を桜井信之が製作。  
「アドバンス・オブ・ゼタ Vol.1」に収録されている  
「ヘイズル予備機」(製作 桜井信之)に取り付けてみた。

GM-79C GM QUEL  
"Haze" "HAT"  
TRI-BOOSTER UNIT

BANDAI 1/100 scale plastic kit "MASTER GRADE"  
FGM-79C GM QUEL  
modeled by Nobuyuki Sakurai/BACK PACK/  
Toshio Iwata/GM QUEL





# ジム・スナイパーⅢの キャノン砲バックハックを作る

ガンダムシリーズ

GM SNIPER III

エリアルドが所属している「ティターンズ・テスト・チーム」は

ヘイズルやビッグウィングといった新機種の試験運用以外にも  
バックパックやシールドといったオプション装備の耐久試験や性能テストを行っていた。

今回、製作を行ったキャノン砲バックとガルバルディⅢタイプのシールドも

そうした実験装備のうちのひとつである。

輝光影が製作を担当したこの装備を山本竜司が製作したジム・スナイパーⅢに取り付けてある。





## RGM-79SR ジム・スナイパーⅢ (キャン砲バック実験型)

1/100スケールプラステック  
マスターグレード RGM-79C ジム改 改造  
製作 神光彫(左翼) 空山真司(右翼)  
文 神光彫

AOZの武器商人こと噂です。今度、編集部からの発注は「スナイパーⅢ用の結局型キャン砲バックとガルバルディβタイプのシールドを作るっす」とのこと。

### ■キャン砲バック

作例製作時には、随時随機による設定画が右ナメ前からのラオス画しかないので(しかも胴体がジム・キャンンのもののみ)、作例ではキャン砲のシルエットのみを参考にさせて置いて、バックバックと各部のディテールはジム・キャンンの設定画と文字設定から「A・O・Zの世界観ならこんな感じかな。」ってな具合にオリジナルのアレンジを加えて作ってみました、どうでしょうか？

材料はプラ材と市販パーツの組み合わせで、ハーニアはMG「ジム改」から流用しています

### ■シールド

本体は1/100スケールの「ガルバルディβ」のものをプラ板で厚みを出して使用。予備認身はプラ板の箱組みです。



各部のユニット比が揃った結果、胴体に段差を加えることなく、ハコバックの機体のみでキャン砲の装備が可能となった



キャン砲は他の機体ハコと干渉することなく、もともとセッティングされる、この位置へのキャン砲の設置はRGC-03のジム・キャンンからの伝説である



シールドはRMS 117ガルバルディβ用のものを運用テストのために改造している。裏面にはシールドを伸縮させるスライド用レールが取り付けられている



金具であるロノクレモノビーム・ライフルは出力が小さく砲身の過熱が激しいため、シールド内は空欄用バレルが2本装備されている

### ■PROFILE

みさき・みつめさ キャラクター情報模型を、スクラッチで建築家からMSまで製作できるスーパーモデラー、C3 2003で新装を製作。販売した1/144ヘイズのシンパシーは好評を博した(ガンダムビルドプラック・プロ)

## カラーリングデータ



- 1 グレー 37番・48M75グレー・パイレット+3番・レッド 少量+8番・ブルー 少量
- 2 濃紺 5番・ブルー 45%+322番 フタロシアンブルー 45%+8番・モンザレッド 10%
- 3 青 72番・ミディアムブルー 80%+68番・モンザレッド 10%
- 4 濃紺色 56番・オレンジイエロー、50%+203番・電光オレンジ 50%

※すべてR35「クレオスZ」のカラー

# EWAC(早期警戒用)ジムを作る。



## EWAC GM

1/100 Scale plastic kit MASTER GRADE

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

1/100 Scale plastic kit

RGM-79EW  
EWAC GM

## EWAC GM

旧ジオン軍ではMS-06E ザク強行偵察型などの、偵察を主な任務としたMSが開発されていた。一方、MSの開発・量産に遅れをとっていた連邦軍では従来型の航空機や戦闘機をベースとした偵察機を数多く保有していたこともあり、

旧ジオン軍の切り札となるMSにこうした能力を持たせることはほとんどなかった。しかし、一年戦争が終結し、MSのみで構成された部隊が一般的となったことで、従来型の偵察機を配備するよりもMSを転用するほうが保守整備の観点からいってもメリットが大きくなっていた。

また、万が一、戦闘に巻き込まれた場合、

戦闘機では簡単に撃破される恐れがあったが、MSの防御力であれば帰還率は高くなる。こうした点でも偵察用MSの必要性は高まっていた。そこで連邦軍はRGM-79およびその派生系の機体を用いた偵察・早期警戒用MSの開発計画に着手することになる。

その際に検討された案のうち、従来機のレドームとRMS-106の

バックパックを流用する案は、コスト面では他を圧倒したが、ミノフスキー粒子散布下での性能に懸念が見られたことにより、

合計3機が生産された実験機は解体されている。

# RGM-79EW EWACジム

1/100スケールプラスチックキット  
"マスターグレード" RGM 79C ジム改 改造

製作 文 松井浩之

■松井さん! 助けてくださいー!!(泣)

「HSさん、誤解でもされたんすか?」って感じの電話からすては始まりました(笑)。どうも救出の依頼ではなく、作例の依頼のようです。最近は見送箱も送ってました(笑)。

■空山さん! 何となくしてくださいー!!

さて、今日のお題はEWACジムです。まずは、電撃ホビーマガジン2002年9月号でソラユウが製作したジム改(アドバンス・オブ・ゼター Vol.1)に忠実に同じ作業をします。

では(MG ジム改)との変更点を「ゼー」で説明しましょう。まず頭を5ミリ板長、フタハゲ下部分とゼーの形状を変えます。後ハム作業をしている時間がないので、とにかく形状を出します。直線はマスキングで真っ白に塗ります。ソールはソラユウから複製パーツをいただいたので、そのまま使わせてもらいました。その他の変更点は足のフック、その後のバーニアの形状、右腕のザクドゥです。監督の皆さんと同じように机の横に本誌を開き、空山先生の作例を見ながらの作業です。できれば本の中から出てきて手強くて、ソラユウ(泣)。

■(ソラユウさん!) MG アイザック発売してくださいー!!

最大の特徴である頭部レドームは、現用の早期警戒機の機体を用いるように思ったのですが、ちょうどいい大きさのものがありません。そこでプラ板を円筒状に切り出し、上側の裏面はプラ板を板状に骨組みを作り、それにポリバチを盛って作ります。骨組みを正確に切り出して、それをガイドにバチを盛るだけで、ある程度の精度は出ます。下側も同じなのでこの作業を2段階繰り返します。キットからの活用が不可能とわかった時点で「テルヘビーで自立不可能だろうな?」と思ったので聞き直して作業の早いポリバチを使いました(笑)。

バックパックは1/100 ハイザックから活用。この辺の細部はアイザックの形状を全部再現に採用します。バックパックの上側にレドームを変え、ハーツをプラ板で付け足して形状を揃えていきます。左右のプロペラントタンクはシェパードの「Gタンク(ショート)」を2つ連結して長さを整えます。

右手の懸架「追加スキャム」は ガンダム・センチネルに登場したEWACネロのものをも参考に、形状をアレンジしてプラ板の骨組みで製作です。

あ、1/100のアイザックがあったなら、今日とれだけ 以下省略(笑)。

## ■PROFILE

さくらのゆき 1/100のミニチュアでもある(バンクモデル)。近況 先日10年ぶりにエレキギターを購入、シグナスのランティロスVです。高かった でもいい音 秋の夜長にギターを弾いている。久々にデーターが恋しくなります。久々に(ソラ)でもやろうかな? (ガンダム)のフルアーマーガンダム



早期警戒や主任機となるEWAC(Early Warning And Control 早期警戒管制)機の副機であるセンサーレドーム。モブスキー一軒子の手でも、副機への応答を速く、0.01秒単位で出ることが可能。センサーを複数に搭載することにより、メインカメラなどの内視鏡やデータリンクを可能にしている。



バックパックは細部まで高いRMS-106ハイザックのモノが活用されている。長時間の警戒任務が可能となるように左右には大容量のプロペラントタンクが搭載され、後部警戒用のセンサーなども取り付けられている。AとBをそれぞれハイザックのバックパックには、設計段階からあらかじめこのようなカスタム仕様に可能なだけの汎用性が確保されている。



「追加スキャム」

シールドは防弾力よりセンサー用の防弾に5ミリほどを重視し、中で取り回ししやすいRMS-106ハイザックのシールドが活用されている。

素手の滑らかな塗料の質感をもとに、その質感が再現したスキャムカメラで、これはインコムのように有線式の遠隔操作で、自在にカメラユニットを動かすことができる。

# ホビーのことなら やっぱり電撃!

## 電撃ホビーマガジン

A4変形判 定価780円(税込) 毎月25日発売

プラモデルから玩具、食玩まで、ありとあらゆるホビー情報が満載の月刊誌。本書内で「本誌」と表記されているのがこの雑誌だ。もちろん アドバンス・オブ・ゼターも絶賛連載中(2003年12月号現在)!そして立体付録もすごい! 2004年1月号(2003年11月25日発売、特別定価980円)では、創刊5周年を記念して、なんと1/144スケールガンダム・ガンダムTR-1「ハズル改」が付いている! A.O.Zから初キット化されたハズルをゲットしよう!

## 立体付録のバイオニア



## カラーリングデータ



① グレー・37番・RLM75グレー  
 バイオレット+3番・レッド 少量  
 +5番・ブルー 少量  
 ② 濃紺・5番・ブルー 42%+322番・  
 フタロシアンブルー 45%+60番・  
 モンザレッド 10%  
 ③ 青・72番・ミディアムブルー  
 80%+68番・モンザレッド 10%  
 ④ 黄緑色 60番・オレンジイエロー・  
 50%+203番・電光オレンジ 50%  
 ⑤ 白 35番 明灰白色+1番・ホウ  
 イト(ハイライト ホワイト)  
 ※すべてGSXクレオスの「Mrカラー」  
 を使用



# 決定稿版の“ヘイズル2号機”登場!



## GUNDAM TR-1 (HAZEL II)

機体番号: EX-101-2

今回の物語でオードリーが搭乗し、マーフィー小隊最大の危機を救ったのが、トライ・ブースター・ユニットを装備したヘイズル予備機。この事件の直後にマーフィー小隊の2番機として再登録され、正式に「ヘイズル2号機」と呼ばれることになる。作例は以前ラフ画稿から桜井信之が製作したものではなく、藤岡謙雄のクリンナップ画稿を基に、新水宏がヘイズル本体からあらためて作ったもの。

トライ・ブースター・ユニットの可動ギミックまで、ほぼ完璧に再現した。





RX-121-2  
ガンダム TR-1  
【ヘイズル2号機】



トライブースター ユニートを横切るブロックの口と スラスター 本体の角度を変更することで 最適な方向転換やビュンダツ、ローリングが可能とする



フレームには様々な武器が格納可能 シールド ブースターを知らない2号機には半折れ式近接グレネードランチャーが装備されているが、その外見は1号機のパーツと変わらない。



1号機の手前番だったこの機体の顔は、ブム・クセルのものにガンダムフェイスを模したものがだったため、現在も修正版にはクセルと同一デザインが施されている。

## カラーリングデータ

1:ダークブルー 80番 コバルトブルー  
50%+37番 RLM75グレーバイオレット  
30%+1番・ホワイト 15%+68番 モン  
ザレッド 3%  
2:パープル コバルトブルー 40%+モン  
ザレッド 30%+ホワイト 20%+RLM75  
グレーバイオレット 10%  
3:イエロー 60番 黄緑色 30%+ホワイト  
10%+モンザレッド 10%  
4:白 ホワイト 70%+35番 硝灰石色  
20%+30番ブルー 5%+モンザレッド  
5%

5:硝灰石 RLM75グレーバイオレット 80%  
+40番・シャーマングレー 20%  
※すべて0.5!クレオス6Wカラーを使用。  
※ダークブルー、パープル、白についてはさ  
らにホワイトを足して硝灰石色にしたもので  
グラデーションを行っています





## RX-121-2 ガンダムTR-1 [ヘイズル2号機]

バンダイ/100スケールプラスチックキット  
“マスターグレード”  
RGM-79Q ジム・クワール改造  
製作 文 沢永 京

さて今回は、F53において格闘戦格で製作したトワイ・ブースター・ユニットの決定版バージョンを製作しました。ヘイズル本体も全段階完成にともない仕様変更されたのであわせて製作。さっそく解説へ。

### ■経緯

ホビーマガジンの付録、「ヘイズルヘッドパーツ」を使用、松田王子の改造例を参考に小沢真人に、ジノも真価がつけられているように感じているのでABS板を使って角度の確たるものを自作、両耳のダクトから後傾斜の部分分はクワールのパーツが使われているという設定なので、ダクト部をクワールの形状に変更し後傾斜にアンテナを追加しました。

### ■経緯

増加装甲を「アレックス」から適用して使用。装甲を貼せるとどうしても太った感じになってしまうので、胸のダクトカバーを若干奥かつ上にずらし、上部部もプラ板で裏打ち後に表面を内側方向に曲げ込み、より胴体に密着した形に変更。これで若干サポートな印象になったと思います。腹のフロントアーマーも裏側を削って若干厚みを減らし、3ミリ延長してスマートに。基盤は設定に合わせてプラ板で形状を変更しました。

### ■経緯

今時の発売を受けて最初にしたこととは、師匠に電話してヘイズルの足首の複製くれーと頼むことでした(笑)。うまく分割した足首を取り付けますが、むらべつたくなっている部分もなくなっていくバランスが崩れるので、スネで5ミリ、太ももで15ミリ延長。足首アーマーも幅が足りなくなっていたので左右で1ミリ増し、太ももは延長の際に横ロールも追加して可動範囲をアップ。

### ■経緯

脚を延長した分のバランスをとるために前腕を25ミリ延長。あとはキットのまま。

### ■バックパック

すべてプラ板新組みの組み合わせで製作。強化型バックパックは箱根型の上にホリバテを薄く貼ってゆるい曲面を再現。各ユニットはそれぞれ向きが整えられるように可動軸を仕込んでいます。

### ■PROFILE

いみず・ひろし 電撃ホビーマガジン所製ライク一着の可動上モブデュー。側面も引込みにアニメのどんなギミックでも再現してしまおう胸を持つ。電撃ホビーマガジン2004年1月号では、付録のガンダムヘイズルを改造して総動可動の作例を製作。読者を驚かせている。[ガンダム占い、量産型ズゴック]



②表側

1号機と同様、2号機も増設装甲の景観が可視。マフラーには「デッドウェイト」だと一顧された真鍮板が、その真鍮板はジオン戦艦部との戦績で実証された。



③

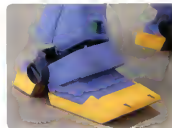
ユニバーサル・スラスターとバックパックを動かす可動フレームによりスラスター・ユニットがフレキシブルに可動する。これらのデータは後にムーバブル・フレームの基礎となった。



プロペラ・タンクとスラスターが一体化したのも、トワイ・ブースター・ユニットのものは従来のジョイント・ブースターとは異なり、それ自体が可動軸となっており、AMBACにも対応できる。後のテールスタビレータにもこの仕組みが応用されている形跡が見受けられる。



2号機はシールド・ブースターの使用が前提とされていないこともあり、機体表面はジム・クワールと同じものになっている。もちろん、1号機と同じ銃痕も再現が可視。



1号機のノールにはアンクルサポートユニットが搭載されているが、2号機はベースとなったジム・クワールのまま。配給も差別化のため、1号機とは異なっている。

### 途中段階

1.「ジム・クワール」をベースに設定画に合わせてプロポーションを変更。トワイ・ブースター・ユニットは当初からのスケラッチであることがよくわかる。

2.増設は本誌2003年1月号の付録「ガンダムヘイズルヘッドパーツ」を追加して使用。後傾斜のディテールは設定に合わせてジム・クワールに似た、ユニバーサル・スラスターすべてをプラ板で製作。最終的に左右を揃えている。

3.ユニバーサル・スラスターをフレキシブルに動かすために多層構造のフレームも自作。フルバネーションのように弾力性も再現している。

4.最終的にバックパックも基本型にはプラ板工作。最終的な顔面のみパテで再現した。



## ヘイズル大破!

## RX-121 ガンダムTR-1[ヘイズル] クラッシュモデル

ジオ独立部隊のワイヤートラップに掛かり、大破してしまったヘイズル1号機。

その衝撃的なシーンについては、これまで制作されたキットをOGで加工したのではなく、破壊された状態を立体で再現したもの。

RX-121 ガンダムTR-1  
[ヘイズル] クラッシュモデル

© 2003 関 1/144スケールレジンキット  
RX-121 ガンダムTR-1[ヘイズル]改造  
製作・文 梶井優之

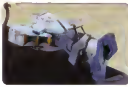
今回は神氏が原型を製作したキットを使っての作例です。これは© 2003で販売するものですが、さすがは神氏、凄く出来た。これに匹敵するためには、としばし頭を悩ましてしまいました。

とりあえずは神氏のラフ画をもとに、どこをぶっ壊すかを決めます。聞いた話では、私が製作したザクのワイヤー攻撃でやられてしまうとのこと、ちょっと複雑。また、今後のストーリー展開(ナイショですが)もあるので社内に破壊されるというより、関節が攻撃に耐え切れず、手足がバラバラになってしまったという感じでダメージを加えています。

塗装については、今回ツヤは消しています。各色の自然なツヤにお任せです。ただいつもより暗く悲しい印象を出すために、かなり暗い色から各色を立ち上げています。使用したベース色は長年使ってたんだ「捨て色」です。軽く300色は選んでいると思います(笑)。また、ハゲツキ口表現ですが、時勢がたつて錆が出たというより、いかにちやちやしてな感じを出すために、錆のみでまわっています。

## ■PROFILE

さくらのふゆき・香澄はこやかだが、実は終るとこわい(る強い)武装系モデラー。近況/AOZの作家である李野先生とお話を一緒にしました。それがきっかけで、先生の空手教室に通おうかとソラリックと計画していましたが、結局さん断念が。今野先生、時勢がついて見学行きまわね! [ガンダム占いのフルアーマーガンダム]



小指でも描写されているように、ワイヤーアームに絡められたところを、周吉から担い撃ちされて破壊されたヘイズル。装甲に覆われていない関節部を中心に破壊されている。胸部増設装甲が外れて宙に浮いている状態は、パーツの一部をビーム・ライフルに固定することで再現した。

## RX-121-2 ガンダムTR-1 [ヘイズル2号機]

バンダイ/100スケールプラスチック  
「マスターグレード」  
RGM-78QC ジム・クックセル改造  
製作 文 村水 宏

さて今回は、PB3において仮組組が製作したトライ・ブースター・ユニットの決定版バージョンを製作しました。ヘイズル本体も主役機昇格にもない仕様変更されたのであわせて製作。さっそく解説へ。

### ■頭部

ホビーマガジンの付録、「ヘイズルヘッドパーツ」を使用。若田王子的改修例を参考に小細部に、ツノも角面がつかまっているように感じるのでABS板を使って角度の優たものを自作。両耳のダクトから後部の部分はクックセルのパーツが使われているという設定なので、ダクト部をクックセルの形状に変更し後部にアンテナを追加しました。

### ■胴体

増設装甲を「アレックス」から流用して使用。装甲を寄せるとどうしても太った感じになってしまうので、胸のダクトカバーを若干狭くつ上にずらし、上面部もプラ板で裏打ち後に表面を肉厚分削り込んで、より胴体に密着した形に変更。これで若干スラートな印象になったと思います。腰のプロトアーマーも裏面を削って若干厚みを減らし、3ミリ延長してスマートに。腰部は設定に合わせてプラ板で形状を変更しました。

### ■腕部

今回の発注を受けて最初にしたことば、師匠に電話してヘイズルの足首の複製くれ〜と頼むことでした(笑)うまくゲットした足首を取り付けますが、ひらべったくなっている分身長も低くなつてバランスが崩れるので、スネで5ミリ、太ももで1.5ミリ延長。足首アーマーも幅が足りなかったので左右で1ミリ増やし、太ももは延長の際に横ロールも追加して可動範囲をアップ。

### ■足部

脚を延長した分のバランスをとるために前脛を2.5ミリ延長。あとはキットのまま。

### ■バックパック

すべてプラ板箱組みの組み合わせて製作。強化型バックパックは箱組みの上にポリバテを薄く張ってゆるい色面を再現。各ユニットはそれぞれ向きが変えられるように可動軸を仕込んでいます。

### ■PROFILE

いみず・ひろし 電撃ホビーマガジン所属ライターとしての可動上手モダラー。両面も引かすにアニメのどんなギミックでも再現してしまふ癖を持つ。電撃ホビーマガジン2004年1月号では、付録のガンダム・ヘイズルを改造して超絶可動の作例を発表。読者を買かしている。「ガンダム古い習性型ズシク」



1号機と同様、2号機も増設装甲の装着が可能。マーフィーには「デッドウェイト」だといふ説があるが、その有効性はジョーン・スミスと同等と見做された。



ユニバーサル・スラスターとバックパックを繋ぐ可動フレームによりスラスター・ユニットがフレキシブルに可動する。これらのデータは後にムービー・フレームの基礎となった。



プロヘラントタンクとスラスターが一体化したものの、トライ・ブースター・ユニットのものは従来のジョナルム・ブースターとは異なり、それ自体が可動軸となっており、AMBACにも対応できる。後述のスタビライザーにもこの技術が応用されている形が窺われる。



少力機はシールド。ブースターの使用が前提とされていないことも、脚・腕部はジム・クックセルと同じものになっている。もちろん、1号機と同じように武装も装着可能。

1号機のソールにはアングリガートユニットが搭載されているが、2号機はベースとなったジム・クックセルのまま。配色も機体比のため、1号機とは異なっている。

### 途中経過

1. 1号機は本誌2003年1月号の付録「ガンダムヘイズルヘッドパーツ」を加工して使用。後述のディテールは設定にあわせてジム・クックセルにした。

2. ユニバーサル・スラスターはすべてプラ板で製作。機体左右に左右を揃えている。

3. ユニバーサル・スラスターをフレキシブルに動かすために多層板製のフレームを自作。フルバージョンのように可動機も可能になっている。

4. 強化型バックパックも基本例にはプラ板工作。機体表面のみのバテで再現した。



## ヘイズル大破!

## RX-121 ガンダムTR-1[ヘイズル] クラッシュモデル

ジオン残党部隊のワイヤートラップに掛かり、大破してしまったヘイズル1号機。

その衝撃的なシーンについては、これまでに製作されたキットをCGで加工したのではなく、破壊された状態を立体で再現したもの。

RX-121 ガンダムTR-1  
[ヘイズル] クラッシュモデル

CG 2003用 1/144スケールバンプレスト  
RX-121 ガンダムTR-1[ヘイズル]改造  
製作・文 福井浩之

今回は神氏が原型を製作したキットを使っただけの作例です。これは「CG 2003」で販売するものですが、さすがは神氏、凄じい出来です。これに応えるためには……としばし頭を抱えてしまいました。

とりあえずは神氏のラフ画をもとに、どこをぶっ壊すかを決めます。聞いた話では、私が製作したザクのワイヤー攻撃でやられてしまうとのこと。ちよつと御確……また、今後のストーリー展開(ナッシュですが)もあるので仕様に破壊されるといふより、関節が攻撃に耐え切れず、手足がバラバラになってしまう……という感じでダメージを加えていきます。

塗装については、今回ツヤは消しています。色味の自然なツヤにお任せです。ただいつもより細く細かい印象を出すために、かなり濃い色から色味を立ち上げています。使用したベース色は青年魂め込んだ「漆で色」です。軽く300色は選んでいると思います(笑)。また、バグチョロ表現ですが、時間がたつて錆が出たというより、いかにもやられてたて無しを出すために、狙いもできています。



## ■PROFILE

さくさいのぶゆき 筆役はこやただが、実は怒るといひ(6強)い武闘派モデラー。近況/AQ2の作家である今野先生とお話を一緒にしました。それがきっかけで、先生の空手教室に通おうかとツラリョクと計画しています。如何せん時間がない。今野先生、時間貸つけて見学行きますね! [ガンダムガールファンマーマーガンダム]

小説でも描写されているように、ワイヤーアームに絡め縛られたところを、両腕から引き撃ちされて破壊されたヘイズル。装甲に覆われていない関節部を中心に破壊されている。胸部増設装甲が外れて宙に浮いている状態は、パーツの一部をビーム・ライフルに固定することで再現した。



# プロトタイプ・アッシマー MS形態登場!

藤岡健能によって描かれた複雑なデザイン  
のアッシマーTR-3[キハール]MS形態をコ  
トブキヤの根本やすひろが完全再現した!  
ちなみにこのモデルは2003年8月23、24日、  
千葉県の幕張メッセで開催された「C3  
2003」で限定発売されたガレージキット。  
その精緻な造形を感じてほしい。

NRX-044[R]  
PROTOTYPE ASSHIMAR  
TR-3[KEHAAR]

試作アッシマーTR-3[キハール]

NRX-044[R] PROTOTYPE ASSHIMAR TP-3[KEHAAR]  
modeler: Hay Noriaki / Creator







NRX-044[R]  
プロトタイプ・アッシマー "TR-3" [ミハール]

カラーリングデータ



- 1 オレンジ 50番・黄褐色 80%+1番・ホワイト 20%+59番・オレンジ 20%
- 2 黄 72番・ミディアムブルー 70%+2番・ブラック 10%+67番・パープル 20%
- 3 赤 79番・シャインレッド 90%+1番・ホワイト 10%
- 4 白 1番・ホワイト 80%+2番・ブラック 10%
- 5 青 (バーニアなど) 22番・タークアース 90%+2番・ブラック 10%

※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」と「ガンダムカラー」を使用。











# RGM-79C GM TYPE-C (Ver.0085)

1/100 scale plastic kit MA-1000000  
RGM-79C GM TYPE-C  
modeled by Nobuyuki Sekura

ティターンズによるコロニー住民の大虐殺、いわゆる「30/パンチ事件」はU.C.0085年の出来事。この時期は戦後初の連邦軍制式採用量産機としてジムⅡの配備が進められていたのだが、すべての連邦軍にジムⅡが配備されたわけではなく、多くの部隊では果た一年戦争当時の機体とその派生型が使用されていた。ここに掲載されているのはそんな連邦軍に存在していたジム改（製作：梶井隆之）。ティターンズに動用された部隊が機体色をジムⅡの制式採用カラーに塗り替えたものである。

# 宇宙世紀0085年仕様のジム改を作る



## 宇宙世紀0085年仕様

U.C 0085年当時

連邦軍の次期主力MSとして開発されたRGM-79SRジムⅡおよびRMS-106ハイザックは各部隊への配備が進められている途中であり

未だ連邦軍の半数以上の部隊では

旧型のジム・シリーズが使用されていた。

このジム改も、そういった新型機の配備が間に合っていない部隊において

使用されていたものである。

後に「30/ベンチ事件」と呼ばれる親ジオン兵の弾圧に各を倒した

専ガスによるサイド1・30パンチコロニーの住民大虐殺。

この作戦に際し、バスク・オムはティターンズの正規部隊の他に

一般の連邦軍からも多くの部隊を借用して作戦に従事させていた。

そして、ほとんどの隊員は

その真の目的を知らされないまま作戦に参加していたのだった。

# RGM-79C ジム改 [U.C.0085年仕様]

バンダイ/1/100スケールプラスチックキット  
マスターグレード RGM-79C ジム改 改組  
製作・文 松野道之

どうも、最近「ガンダム魂」が出てきた報井です(笑)。今回は[MG ジム改]を、Zガンダムに登場したジムⅡ(連邦カラー)と製作せよとの指令です(文字と表すとややこしいっすね)。制作製作時点で物語の経緯を聞いていないのですが、なんでもあの作ったこのジム改が、あの[30]パンチ事件に関わっていたのだとか、フザッな心境です。

前、軍部に命令され、単は強制的に兵隊兵や生物兵器、更にはそれをのせて飛ばすロケット兵隊、特殊機などの開発をさせられた当時の科学者達はこの心境だったのでしょうか？ 僕も所したら政治犯として収容所送りなのか？ やはり収容所の所長はムラなのか？ えっ、そんな大げさなモンじゃないって？…スミマセン。

キット自体は「ストレート」組みで行けり！ということなので、ストレート組みですが、脚部の装甲の合わせ目は消しました。どうも「合わせ目のパネライン処理」と言うのが性に合わないものでして…。

カラーリングは別記参照。ジムⅡの赤はあき色に近い上、明るい赤で通ると華なる「ジム改・スタンダードカラー」とは変わらないので、思いっきり暗めにしています。本体の白も赤にあわせて華色系に、シールドの赤は機体色とは関係ないので普通の赤。

デカルは「インブリュウ型」のものを使用。アリガトネ、度々！ 肩の部隊マークやタイタースのマークは作例の性格上、正体がバレてはマズい隠匿行動ゆえに入れていません。ただそれでは気が引けるので、シールドにだけさり気なく貼ってみました。

## ■PROFILE

さくらいのぶゆき 元ミュージシャンで現在管理職の会社員。そして残夢の夢を襲って機体を作り続けるサリーマンモダラーの顔である存在。[ガンダム]のフルメタマガンダム]

## カラーリングデータ

① 赤(機体) ② 白(マゼンタ) ③ 黒(ブラック)

④ グレー ⑤ グレー ⑥ グレー ⑦ グレー

⑧ グレー ⑨ グレー ⑩ グレー ⑪ グレー

⑫ グレー ⑬ グレー ⑭ グレー ⑮ グレー

⑯ グレー ⑰ グレー ⑱ グレー ⑲ グレー

⑳ グレー ㉑ グレー ㉒ グレー ㉓ グレー

㉔ グレー ㉕ グレー ㉖ グレー ㉗ グレー

㉘ グレー ㉙ グレー ㉚ グレー ㉛ グレー

㉜ グレー ㉝ グレー ㉞ グレー ㉟ グレー

㊱ グレー ㊲ グレー ㊳ グレー ㊴ グレー

㊵ グレー ㊶ グレー ㊷ グレー ㊸ グレー

㊹ グレー ㊺ グレー ㊻ グレー ㊼ グレー

㊽ グレー ㊾ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー

㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー

㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー

㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー

㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー

㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー

㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー

㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー

㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー

㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー ㊿ グレー



機体色

このジム改は、タイタースによる部隊転属にあわせて、ジムⅡから新式採用されたカラーリングに機体色を変更されている。グレーの面と、黒いコックピット・バックの塗装が特徴的である。



銃器

ビーム兵器は機体(一般)としてU.C.0080年代だが、初期型から改良が施されたジムⅡのビーム・スプレーガンは機体色を再現する。また、有実射撃は改良された。さらにビーム兵器の製造コストや保守整備の観点から、多くの部隊ではジム・ライフルのような実弾兵器が使用されていた。



頭部

ジム改は、機体主に次期主力MSのRGM-79RジムⅡに最も近い機体であり、頭部ユニットもセンサー機能の能力を下げればは同時の通りとなっている。



連邦軍の一般部隊がタイタースに降参した場合、現在タイタースの指揮下にあることを示すため、シールドなどにタイタースのエンブレムがマーキングされる。





## キミだけのガンダムを 作るための必読書 現在ガンガン増刷中!

### ガンダム スクラッチビルド マニュアル

“スクラッチビルド”と呼ばれる、まったく何もないところから自分だけの機體を作る方法があります。この本は、ガンダムのモデルスーツに限定してその方法を紹介。ふんだんな写真と詳しい解説で初心者でもわかりやすく構成したハコト本になっています。工作用のプラスチックから様々な造形用粘土(=バテ)の加工方法、パーツを複製するためのシリコーンやレジンなどの扱い方まで、造形の準備から応用までを事細かに解説。スクラッチをしたいけど何から始めたらいいのかわからない人、知識も技術もあるけど壁にぶつかってしまった人、何か新しい表現を模索している人など、機體が好きなら絶対に楽しめるはず。もちろん、ガンプラ(=ガンダムのプラモデル)の改造にも役に立つので、中級モデラーも必読の1冊です。



この本を元手に手を動かせば、ガンダムだけでなく、ほぼプラモデルになつていない1/100スケールザク改の扱い方も、自分だけのカラーリングが作れるぞ!



この本を頼れば、キミだけのガンダムが作れる!!

この本を頼れば、キミだけのガンダムが作れる!!

著者 GUNDAM SCRATCH BUILD MANUAL  
刊行 444頁 118ページ 価格 2,500円+税

©創通・エーエスシー・サンライズ



頭部

本来、ティターンズの機體であるジム・クウェールの一般部隊向けの版図という版図の描像。これは、たとえ一般部隊であっても、ティターンズに属しているからには機體はもとより、MSにもティターンズに相応しい(真)の向上が必要であると考えられたからである。



T3部隊で実際に運用されているドバク方式の新型にムーム・ライフル。このムーム・クウェールは、ミズルが使用しているショートバレルタイプのものが数機存在している。



一見

改造されているシールドは戦後に運用された標準規格となったノーマルタイプのもの。あくまでもティターンズとの差別化を図る要素もあり、クーエールは「ドバク」運用が主眼。3のままとされている。

### RGM-79Q ジム・クウェール [コンバイトウ方面仕様]

バンダイ1/100スケールプラスタックキット  
“マスターグレード”  
RGM-79Q ジム・クウェール改造  
製作・文 NAOKI

編集部からの発注時は基本的にカラーリング変更のみでよいとのことだったんですが、自分宛にこのキット、どうもプロポーションがマッチするものと、「クウェール」以後の連邦系マスターグレードのラインに揃えるために、少し手をいれさせてもらいました。以下、修整点の解説します。

#### ■頭部

首を一度切り離して延長6mmをひけるように頭部内側を削り、首自体も元の位置よりも後方へセット。その際、エリの内側も削り取ります。

上半身を接続部で確認。脇のV字マークのある面を大きく見せるため、外縁をギリギリまで削り込み、内側の赤いラインをプラ板で補填しています。



頭部

ティターンズに導入されたコンバイトウ方面仕様のジム・クウェール。そのためにティターンズに採用されたカラーリングは、いわゆる連邦カラーと違って、基本的にカラーリング以外の差異はほとんどない。



頭部

連結カラーの塗装のため、顔面も当然グレー系のカラーリングで統一されている。ソール・バスターも顔面カラーリングに合わせた配色が変更されており、顔面内の統一が図られたように。



T3部隊の格闘下に導入されたこのジム・クウェールは標準アーマーにバック・ホルダーが追加されている。これは、顔面内側の改造の一環のため、顔面・ムーム・ライフルとセットで追加されたものである。

#### ■胴部

胴部を3mmほど延長。

#### ■脚部

「ガンダム[Ver. Ka]」から移植。そのままでは短いので腰部のボールジョイントパーツを加工し、上下逆にして取り付けています。足直接接続部は3mmほど延長。ディテールはエボ/バテ等で「クウェール」に準じたものに修整しています。スネのセンサーは「アルデコ SSP-HG」で裏打ち後に開孔、メタルシールを貼ったプラ板の上にクリアプラ板を重ねています。

#### ■PROFILE

なお、斬新なデザイン解釈を得意とする新感覚モデラー。実は本誌はデザイナーであり、電撃ホビーマガジンでは自分で作った作品のページを自分でデザインするという「マルチ」を発願している。[ガンダムおじいアツム]





生まれ変わったヘイズルを1/100スケールで作る

ガンダムシリーズ100周年  
GUNDAM 100th ANNIVERSARY  
2019-2020









# RX-121-1 ガンダムTR-1[ヘイズル改]

[シュトゥツァー]ユニットを用いたジオン残党部隊の攻撃で大破したマーフィーのヘイズルに連邦軍で開発中だったリニアシートなどの最新技術を実験的に投入して生まれ変わった機体。外見上は以前のヘイズルと変わらないがソフトウェアの面ではまったくの新型になっている。電撃ホビーマガジン2004年1月号の付録キットにもなっているこの「ヘイズル改」を空山竜司が製作。これまで誌面で公開していたヘイズルの色替えではなく新たに作り起こしたものになっている。

# プラモ

カンベキ塗装ガイド ぶはしモノの

## プラモデル塗装の 必携バイブル!

電撃ホビーマガジン創刊号から続く、大人気ハウトウ連載「ぶはしモノのプラ」が1冊の単行本になって登場。プラモデラー 経験豊富な長年かけて培ってきた塗装技術を、余すところなく紹介します。初心者からベテランまで、この1冊で模型塗装はカンベキ!!



カンベキ塗装ガイド ぶはしモノのプラ  
発行中/価格 本体2,000円+税  
発行 メディアワークス

© 創通 エンジンコーポレーション



頭部の形状のモノは、最終形態時の頭部保持部に内蔵されているヘルメット・クリップ・ハー。最終形態にならない作戦ではマルチ・ディスプレイシャーに装着される。



1冊

ヘルメット改の頭部ユニット。基本的には近代ヘルメットと同じものだが、コクピットが360°全天候モニターに換装されたため、光学機器に若干の仕様変更が加えられている。



コクピットは、ヘッド部にオプション装着機能用の多目的ラックが搭載されたほか、コクピット自体がリアシート・システムと360° 全天候モニターに変更されている。



テスト時であるヘルメット改の機体各部にはデータ収集用のセンサーが多数設置されている。胸部装甲部の突起やへこみにも、それらセンサーが組み込まれている。



12段階の共通塗装であるEハルク・ホルダーは、もちろんヘルメットにも塗装されている。前後で戦うヘルメットは、共に左右2箇所ずつ4箇所のEハルクをサイドアーマーに設置している。



ヘルメット改の機体アーマー。塗装を基調としたカラーから、グレーを基調としたカラーに塗装が変更されたため、旧いモデルズーツと呼ばれる近代ガンダムに近い印象を受ける。

連中隊用

1 ミスター・グレート(のジム・クワエル)と「ガンダム Ver Xa」を組み合わせで「ヘルメット改」の基本的なシルエットが形成されているのが分かる。



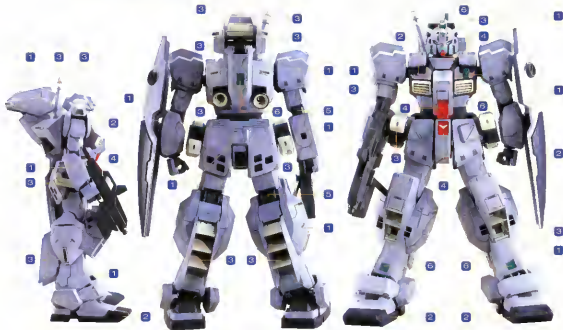
特長のアングラー・フレアリング・ユニットが特徴的なヘイズル機の反響。ヘイズル特有の角の形状はヘイズル機にも継承されている。



図ア

フロントの肩アーマーはジム・クウェルのものがそのまま活用されている。肩のリアアーマーは初代ヘイズル同様、スラスター内蔵式のデザインになっている。

## カラーリングデータ



- 1 グレー「ガンダムカラー」・ホワイト(4)+87番「パール」少量
- 2 紺・35番「ブル」F16044
- 3 白・1番「ホワイト」少量
- 4 エロ・1番「ホワイト」+4番「イエロー」少量+80番「コバルトブルー」少量
- 5 紺・60番「モングレッド」
- 6 紺・33番「エクストラダークシーグレー」
- 7 センター・175番「ダークグリーン」に50番「クリアブルー」をコート

※以上すべてGSクレオスFM・カラーおよびバンダムカラー・スミレ「タニヤカラー」エメルDF-24・ダークグレイ

### 製作経緯

- 1 経路はやや反響がなから、本誌2003年1月号の付録「ヘイズルヘッド」を改修して使用。付属していない人は「ジム・クウェル」と「Ver.Ka」の骨を組み合わせつつ改造してもいいだろう。
- 2 肩のアーム・バーホルダーおよび「バックパック」はプラ板によるスクラッチで製作。「Ver.Ka」の骨のラインに合わせて製作した。
- 3 フロントのリングは設定画を参考にプラ板の端で基本的な形状を削り、裏は「クウェル」のものを使用する。Ver.Kaの肩に「クウェル」の肩を埋め込んだ。
- 4 肩アーマー・前面には「Ver.Ka」を使用。フロントアーマーを下方向に足具、センターアーマーは斜め出しを斜めにしてある。リアアーマーには「NT-1」の「ム」アーマーを使用。サイドアーマーは「バック・ホルダー」を取り付けたとの組みを参考するため、小のものを添えて加工した。
- 5 丈を伸ばすため、フレームと装甲をそれぞれ2倍にした。
- 6 スネのスラスターはプラ板の端を軸を中心に各ブロックを製作。それを組み合わせたものを「クウェル」のフレームに組み立てている。
- 7 足具は肩関節とアングラーアーマーの関節を「クウェル」から流用。残るパーツはプラ板と、その「クウェル」から流用し、組み立てたパーツを使用した。
- 8 プラスター・ボルトもベニス部分にはプラ板。今のところ、「ヘイズル」にはプラスター・シールドがなく、製作時に余裕がなかったこともあり、アームブロックは固定した。



## RX-121-1 ガンダムTR-1 [ヘイズル改]

1/100スケールプラスティック  
「マスターグレード」  
RGM-79G ジム・クゥエル改造  
製作 文 金山竜司

今回は大膽したヘイズルに代わって登場した「ヘイズル改」を作らせてもらいました。  
以前、そのヘイズルにタタメージを与えたジオン機、厚手のゲルダグを作ったので思いは増強です(笑)。このヘイズル改はコクピットまわりとカウリングのみが変更されたので、ブースター・シールドなどのないシンプルなお設定になっています。

まず最初に脚部直にヘイズルの脚の関節パーツをもらいに行ったのですが、保証も1/100でまた作るとは思っていなかったようで、脚のパーツは初集の部品のみに残っていました(泣)。その代りに「Z」の3008で新集していた「1/144 ヘイズル」の脚型を形状に準拠して作っていただいたので、設定者から立派にするときの予備を渡す必要がなくなりました。

脚部から21世紀が作った1/60のヘイズルくわいのディテールをという気持もあったのですが、あの歴史的なディテールを完全再現するのは自分にはちょっと無理なので1/100という大きさに合うようにポイントを取って再現してみました。

■機体  
2003年1月号付録の「ヘイズルヘッド・パーツ」をそのまま使用、フェイス部は特許を優先してあてておいて、でもいまだちまちま改造したので、「何となく違った」といった感じがこれには自分でも分かりません。すみません。  
アンテナは「MGスライム」のものを角度を変えて使っています。機体の上部を少し延長し目の見える部分を狭めたつもりでした。

■MG  
「MGジム・クゥエル(以下クゥエル)」のパーツだとダクトの形状が設定と異なるので、脚部を「MGガンダム Ver Kai」以下、Ver Kai)から選用了。ウエスト部は「クゥエル」のパーツを使って絞った感じになっています。新設のクゥエルはやはり大きさを角度を調整するのには少々苦労しましたが、「クゥエル」のパーツに少しプラ板を貼って形を変えました。右側「スライム」のアンテナも「Ver Kai」から汎用。説明書に合わせて斜めに調整した感じにして、機体アンテナは斜めに下に延長しています。肩プレームやバックパックは仮置きでプラ板からスラッシュ。

■Ver Kaiと「クゥエル」は脚の差し込みが違っているのでクゥエルの脚部を脚部に差し込みました。後はキットのみです。

■機体  
設定画からマッチャでゴッゴツとした感じを受けたので、パーツの取付け位置や角度を変えました。バランスを取るために太ももを5ミリほど延長しています。肝心のディテールですが、大変だったのが前集のスラッシュの部分と丸いバルトの表現。スラッシュは通りを考えた全パーツを分割できるようにしたのですが、キングよりもパーツの多さで泣きました。

### ■PROFILE

せりやせりやうじ シャーパは造形力、スラッシュ作例から部品型製作までこなす人気モデラー。近所系ASの製作を得意としている。(ガンダム古い) プラ・プロ



脚部の強化パーツは「フクロハズ」部分のパーツが強化されたため、若くヘイズルよりもシャープな印象を受ける。また、パーツごとにバラバラだった接続もグレイに統一されている。



ヘイズル改のシルエットを特徴的なものにしてはブースター・ボット、AMBAC・ユニット、ベクター・スラッシュ、マルチ・ジョイントと多彩な機体を併せ持っている。

初代ヘイズルではウエストまで伸びていた強化バックパックの中実モジュールが短く切り取られたため、首周りは全体的にスマートなフォルムとなり、機動運動も向上した。



ブースターとシールドの機体構成で変わったブースター・シールドに代わって、ヘイズル改は連射用の一般用MS用シールドを装備している。

T3機で試運転されているEバック方式の改型ビーム・ライフル。ヘイズル改のものは最近戦での取り回し、扱いに、部身が切り取られたショート・バレルタイプになっている。



ジオン残党仕様で  
高機動型ゲルググを作る。

# MS- GELGOOG

FOR UNIDENTITY TYPE (U.S. OM)

ジオン軍残党が使用するゲルググ高機動型の改造機。生産・配備が終戦直前であったため  
活躍の機会が少なかったゲルググであるが、その生産数は相当数にのぼり  
終戦後は連邦軍の追撃を逃れたジオン軍残党によって広く使用されていた。  
補給のままならぬジオン軍残党では機体を独自に改造して使用することが多く  
この機体もバック・バックにプロペラントタンクが装備できるよう改造が施されている。  
Episode 3.2ではマーフィーの乗るヘイズルと相打ちになったこの機体を  
MG「アナベル・ガトー用ゲルググ」をベースに製作。担当は古木誠人。



## MS-14B 高機動型ゲルググ

バンダイ1/100スケールプラスチックキット  
“マスターグレード”

MS-14A ゲルググ(アナベリ・ガトール専用機)

製作・文 古木誠人

どうも古木です！ MG「ガトール専用ゲルググ」を量産型に！ って、ただカラーを覚えるだけじゃないっすよー。「プロベラントタンク、丸いのつけて！ 四角はダメよー」ということで「丸いの」が4本ついたMS-14B？を製作しました。

キット自体はストリート組みですが、手許に量産型ゲルググのヘッドとスカートアーマーが残っていたのでそれを移植。スパイクシールドはMG「ランバ・バル専用ザク1」からそのまま使っています。また、右腕のサブスラスター・ユニットは110ミリ連射砲に変更。これはプラ材とコトブキヤの「モビルパイプ」を使用して作りました。

プロベラントタンクはウェーブの「Gタンク・ロング」に類似した「ロングM」を使用しています。キットを組み上げた時点でモーターツールを使ってバトルダメージを入れました。

基本塗装が終了したら、「タミヤエナメルカラー」でウォッシングし、デカールを貼り付けて完成です(バトルダメージおよびウォッシングのやりすぎには注意しましょう)。



高機動型のバック・パックに、作戦行動時要員のためのプロベラントタンクが追加装備できるように改造が施されている。



ゲルググ・Mなどによく装備されているスパイク付きのシールド。小型で取り回しが良く、そのまま精鋭兵器としても使用できるスグレ物である。



ゲルググ軍にむかひに改造された強化型のビー・ライフル。ノーマル・タイプに比べ、バレル延長による収束率の向上と市販砲の強化が施されている。



腕にはサブスラスター・ユニットではなく、110ミリ連射砲が装備されている。予備筒基盤から威力は高く、悪代わりない試案である。

## ■PROFILE

ふるふ・なるひとエースそいのA O Zモデラーチームに名乗りを上げた新進モデラー。ジオ系MSの製作を中心に活躍中。[ガンダム占い ガンダムアレックス]

## カラーリングデータ



- 1 脚(本体) 15番・濃緑色 50%+38番・オリブドラブ(旧) 30%+1番・ホワイト 10%  
2 グレー(海軍) 13番・ニュートラルグレー 70%+1番・ホワイト 20%+38番・R.M.74グレー  
3 グリーン 10%  
4 グレー(ビザマーなど) 40番・シャーマングレー 50%+71番・ミッドナイトブルー 50%  
5 グレー(関節など) 13番・ニュートラルグレー 80%+2番・ブラック 20%

※すべてGSIグレイスの「Mr.カラー」



# ジオン残党部隊の改造MSを作る。

— 戦争終結後、各コロニーや衛星都市などに溜み  
連邦政府に対する抵抗活動を行っていた  
ジオン残党部隊。

彼らに潜伏していたデラズ・フリードや  
マサシなど、一部の例外を除いて  
基本的にMSの生産手段を  
持たない彼らは

一部コロニーのシンパなどから  
極秘裏に補給を受けていた。

そうして集めた物資をもとに  
彼らは自分たちの保有するMSに  
対して独自の改造を加えていた。

今回登場したリック・ドムや  
ゲルグもまた

そうした改造MSのひとつである。

静岡建築がデザインした  
これは2機を

村水宏と空山竜司が製作。

ともにHGUCをベースに  
改造を行った。

MS-09  
RICK-DOM  
[Stylzer]

HGUC 1/144 scale  
plastic kit  
"High Grade  
Universal Century"  
MS-09R  
DOM TRIPLEN  
modeled by  
Hiroshi Imizu





BANDAI 1/144 scale  
plastic kit  
High Grade  
Universal Century  
MS-14F  
GELGOGG MARINE  
modeled by  
Ryui Soryama



MS-09R  
RICK-DOM[Stutzer]

カラーリングデータ



①パープル 80番・コバルト  
ブルー 40%+68番・モンザ  
レッド 30%+14番・ノービ  
ーブルー 10%+1番・ホウ  
イト 20%  
②ブラック(ダークブルー)  
14番・ノービーブルー 80%  
+1番・ホウイト 20%  
③グレー1(鋼鉄) 73番 エ  
アクラフトグレー 40%+  
13番・ニュートラルグレー  
30%+1番・ホウイト 25%  
+68番・モンザレッド 5%  
④グレー2(鋼鉄版) 13番  
ニュートラルグレー 70%+  
14番・ノービーブルー 20%  
+1番・ホウイト 10%  
⑤レッド 68番 モンザレ  
ッド 70%+41番 レッドブラ  
ウン 20%+1番・ホウイト  
10%

それぞれカラーを塗布後、さ  
らにホウイトを塗って明るさ  
上げたものを重ねてグラデー  
ション塗装。

※すべてB81クレオスの  
「Mr.カラー」を使用。



## ガンダム ザ・セレクション シリーズ好評発売中!



ガンダム ザ・セレクション  
オールガンダムストーリーガイド  
価格 580円(税別)



ガンダム ザ・セレクション  
オールガンダムMSガイド  
価格 580円(税別)



ガンダム ザ・セレクション  
オールガンダムキャラクターガイド  
価格 580円(税別)

ガンダム ザ・セレクション1〜8も好評発売中!  
価格 580円(税別)

©動感エージェンシー・サンライズ  
©動感エージェンシー・サンライズ・毎日放送



両側の正副ハーフ、ウイングユニットの構造がよくわかる。ウイングユニットは取り外し可能なパーツで作られているため、機体によって機構はまちまちである。



両側に取り付けられた5連装のミサイルポッド、「ZEON ALIVE!!」のマークは特殊塗料ではあるものの、正副機であれば必ず対称的なマークアップである。



脚部はベースとなったドムR型ではなく、ジントクと同等の設計されたリクドムR系のパーツがほぼそのまま使用されている。

### MS-09R リック・ドム(シュトゥツツア)

バンダイ1/144スケールプラスチックキット  
「ハイグレードユニバーサルセンチュリー」  
MS-09F ドムトローペン改造  
製作・文 村澤 宏

以前から参加したいと思っていた「アドバンス・オブ・Z」の企画初巻の封水です。ジオン機体軍仕様のリクドムということで、キットは「HGUCドムトローペン」を使用。宇宙用にするため「リクドムII」から足場を流用。スネのスポンド部分もハイユニットを収めるために切り欠かれたラインになっているのでどうも「トローペン」を用意し、スポンド部分を切り取ってむりやり収め。

あとは増設装甲を乗せるため胸まわりを大きく切り欠いたほか、肩アーマー裏をエポバデで埋め、肩とスネのフレア部分にアジオモーターを追加、手足を新造し、モノアイを可動にしました。

胸まわりの増設装甲および両肩の各種装束はプラ板種組みで製作。ヘッドガードであるうしろの装甲のみ、エポバデを使用しています(後ろ側はプラ板の継ぎ目から)。肩のミサイルポッドおよび背中側の機体散布ユニットとその搭載ブロックはそれぞれ1つだけ製作し、複製して左右分るええした。ウイングに付いているザクの胸はジヤ



後甲板によって脚部ユニットが隠蔽されているのがわかる。脚部と腹間に見える両側のハーフは、両側のウイングユニットのワイヤーで脚部を覆いつけたいためのワイヤーカッターである。



ランドセルが大型化されており、最前部の機体電装も覆われている。ランドセルの上部には、後方視域用のセンサーが取り付けられているのがわかる。



機体背側の機体電装ユニット。肩は兵隊としての執務性は低いが、実用で大量に生産できるため、最終的なまなざしは機体電装はつてつけの必要はない。

リンクパーツの中から旧HGのものを選択。

ディテールにおいて装甲各部に機体電装のようなものが付いていますが、これは色パーツの形状出しをきっちり行なった後、エポバデから出ているプラ材や自分で切り出したプラ板を貼り付け、ペーパーで裏を削り込み、元の面とならして製作しました。

ジオン機体軍の機体という設定から、使い込まれたイメージが浮かんだのでダメージシシやウェザリングなども行ないたかったのですが時間的な関係で断念。でも塗装でその辺が少しでも表現できないかと思い、いつもよりグラデーションをきつめにかけつつ、ハイライトの明度をかなり上げて全体に白っぽくなるようにして、輝けたような、過剰したような、そんな感じを意図して塗装してみました。がどうでしょうか、それはまた次の機会に。

### ■PROFILE

いっぴり・ひろし 金目の父親モデラーに美点を与える予備隊員(モデラー、なんでも可動させるのは「もったいないから」、市販の可動パーツをうまく使わずに製作するのには「モデラーとしてには損かたみだに悔しいから」)。[ガンダム古い 重量型ズググ]

# MS-14 GELGOOG[Stutzer]

## カラーリングデータ



① グレー……71番・ヘッドナ  
イトブルー……下地に「ガンダ  
ムカラー・グレー」(16)とハ  
イライトに「ガンダムカラー  
ホワイト」(4)②、46番・クリ  
ア・オレンジデコット  
③ 黒「ガンダムカラー・グ  
レー」(15)④  
⑤ 黒「ガンダムカラー・グ  
レー」(16)⑥  
⑦ 黒「ガンダムカラー・オ  
レンジ」(11)  
⑧ パーニア・顔飾「ガン  
ダムカラー・グレー」(7) 70  
%⑨ 1番・ホワイト⑩ 30%  
ミラノル・37番・グレー  
ハイオレット

※以上すべて000クレオス  
[MFカラー]および「ガンダ  
ムカラー」

スミ入れ「タミヤエナメル  
カラー」XF-10・フラットブ  
ラウン



# 『A.O.Z.』が 1冊の本になって 好評発売中!

**ADVANCE OF**  
ティターンズの旗のもとに

## 電撃ホビーマガジン スペシャル アドバンス・オブ・Z Vol.1

『機動戦士Zガンダム』の外伝として本誌で大好評連載中の「アドバンス・オブ・Z」が1冊の本になって登場。今野敏による小説とその監修稿を盛り上げる特撮CGで、ヘイズル以下マーフィー小隊の面々の最初の活躍を完全収録。もちろん、書籍特典によってデザインされた様々なMSと、それを基に作られた模型製作例もカラーで掲載。さらに『電撃大王』に掲載されたコミック版(画:あすたつ)の第1話も特別収録されています。これまで『A.O.Z.』を見逃していた人はもちろん、ファンならば保存しておきたい内容です。マーフィー小隊の面々とヘイズルを監修卓也が書き下ろした英紙が目印!

**A4変型判 定価:790円+税  
発売中**



胸部

メインセンサーが内蔵されている胴体を守るため、胸部は増設装甲で覆われている。追加パーツにより胴体シルエットはケルググとかなり異なった印象を受ける。



胴体に装備されたウインチュユニット。ウインチュユニットのアーム・ハブ・ジョイントは実装はないが、さまざまな実装を持たせることができるので自由度が高くない。



両腕はF80のケルググ・マリナーに装備されていたMRB 110型の連射式ビーム・ライフルとシールド。



頭部

両腕にセンサーが集中している胴体を守るように装甲板が追加されている。顔の両側には増設用のブレードアンテナではなく、ワイヤー・カッターである。



ヘッドセルも顔などの追加パーツに合わせて新造されている。顔の両側と裏材でこれだけのパーツを作り上げるジオン軍機師の技術の凄まじさがわかる。



増設

特設的な両腕の増設スラスタ。増設したスラスタユニットとなっており、使った際は切り取りしてケルググ本機への装備を避けることができる。

### MS-14 ケルググ[シュトゥツァー]

バンダイ1/144スケールプラスチックキット  
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"  
MS-14F ケルググダマリーニ改造  
製作・文 空山竜司

ティターンズの独逸軍に胸を入れるべくジオン側の機体が「ワーアップ」して登場する。デザイナーの機関さんは自分と同じ世代(らしい)ということもあり、遠征・ジオン軍を問わずかなりリアルなデザインしてくれるので毎週楽しみにしています。やっぱりケルググ顔は「つぶ」してなんぼでしょう。

#### ■ケルググの素体

中央のケルググ・マリナーにはHGUCを使ったのですが、以前から気になっていた顔とスカートでOVA「0083」の劇中のイメージで改造しました。頭頂部をプラの肉厚ヤリギリまで削り込み、モノアイレールがなくなるくらいひざを下ろしています。やっぱりケルググ顔は「つぶ」してなんぼでしょう。

次にスカートですが、キットはやや小振りな感じがあるのでポリバテで全体的にポリウムアップ。この作業で思っていたよりも時間を取られてしまい、神の切り回しに合わせが。

脱脚脚は前に5ミリほど出し、「0083」の股定高のような足を後ろに引いて腰を出した立ちができるようにしています。

#### ■追加武装

肩のブースターとウインチュユニットはプラ板やポリバテなどから簡易よくスクラップ。意外と左右非対称パーツが少なかったのが結構大変でした。ウインチュユニットは大小3つくらいにレジンブロックをいろいろ組み合わせてそれっぽい形に。ワイヤーの巻き取り部はコトブキヤの丸モールドの組み合わせから、胸はザクに見えたのですが同の新でもいというところだったので、ケルググのそれを模倣しました。

ビーム・ライフルとシールドは「シーマカスタム」から流用。シールドの持ち手を新造した以外はキットそのままです。

#### ■ワイヤー・カッターってなんぞや?

顔と胸に付いているワイヤー・カッターですが、顔側見た時は「増設部がな？」とつい、「今度コレやるんですよ!」新しいアンテナが付いてかっこいいスね」と岩田さんに股定高を見せたところ、「ソラウロ、これワイヤー・カッターだよ」と教えてもらいやっと理解できました。なんも知らないというのは怖いものです。はい。

## ティターンス政権の盛衰

ティターNZは連邦軍の長い歴史の中でも極めて稀な存在だ。連邦軍の中であって連邦軍でない組織。それがティターNZであったのだ。

## ジャミトフ・ハイマン

ディターンズ脱隊、ジオン・ダイクンと同じ地球を人類の居住地とする「エレスム」の暗黒面であるが、ジオンがスペース・ノイドの側からエレスムを襲撃したのに対し、ジメトリアはアースノイドという特殊組織の立役者としてこれを襲撃していた。ディターンズは国のエレスム実現のための道筋が違った。

## バスウ・オム大佐

ジャミホフの忠実な専心で、  
前線の実働部隊を指揮する。



## シーズン・コリニー大賞

ディター・ンズ設立を大きく後押しした人物。彼の引退後、ジャビトフはその跡目を引き継ぐ。

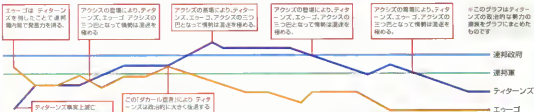


じや、軍機受取のたための特殊部隊  
 として知られる「ナイト・ハイパー」  
 こそ、その最前線である「ジャミット・ハイパー」  
 マンションのため「イタリオンズ」を作った  
 のであらう。

一年戦争においてスベ・スワイプの差  
 先鋒である「ジオン」公国が行った「コロニー  
 落とし」戦後、戦後復興を催した自由自然  
 環境と地球環境の悪化の途となつた  
 生活圏が被災した宇宙世紀において地球  
 球を人種の地球と考える「エズム」の  
 提議者として、この以上の地球環境の  
 破壊を真正めるために、彼が行きまわ  
 した結核が選ばれる「アース・イタリオン」  
 人類の管理「イタリオン」である「ジャミ  
 ム」のため「アリス・ブレイド」を立て「ジャミ  
 ム」は、連邦政府の財務担当官から

上主義の旗のもとでタタンバズ設立した。その後の勢力拡大にこそこのタシヨは最大の役割を果たした。タシヨは連邦と武力両面の二方向から連邦軍、さらには連邦政府にまで力をつけていた。連邦軍内では、タシヨは「連合タータン」大組織と作りかへていた。連邦軍内において、独立した「連合タータン」大組織は最終的に「連合タータン」の掌握に向けて最終的であった。しかし「スベリフイット」抑圧するタシヨの政策は当然のことと大きな反響を呼び、対抗組織として「エゴ」をみ出し、果ては「エゴ」により「ディターン」は壊滅させられるのである。

連邦軍に移籍した経歴を持ち、この政財界とのコネクションを駆使し、地球至



ユーゴは、ティターンズを倒したことで連邦圏内閣で発言力を得る。

アクシスの置場により、ディターンズ、エーゴ アクシスの三つ色となって機體は変遷を果てる。

アクシズの基調により、ディターンズ、エコーゴ、アクシズの三つ巴となって情勢は真逆を極める。

アクションの習得により、ディターンズ、エコーズ、アクションの三つ巴となって情勢は混乱を極める。

アクシズの襲撃により、ティターンズ、エウゴ、アクシズの三つ西となって情勢は混乱を極める。

※このグラフはディター  
ンズの政治的な勢力の  
変遷をグラフにまとめた  
ものです

[illegible]

# 「マスターグレードザクF2」を 使ってジオン残党部隊の 改造MSを作る。

## MS-06F ザクⅡ [シュトゥッツァー]

一年戦争終結後、各コロニーや隠蔽宙域などに渡り、連邦政府に対する抵抗活動を続けていたジオン残党部隊は、一部コロニーのジオンシンパなどから輸送艇に補給を受けていた。そうして受け取った物資をもとに、彼らは自分たちの保有するMSに対して独自の改造を加えていた。先月号では、そうした機体の一例と言えるリグ・ドム[シュトゥッツァー]やゲルググ[シュトゥッツァー]を紹介したが、今回は、ザクをベースにしたバリエーションをご紹介しよう。「A.O.Z」本編には未登場だが、こちらも画師津路によるデザインで、それを板井勉之が製作。「MGザクF2」をベースに改造を施した。



MS-06F  
ZAKU II  
[Stutzer]



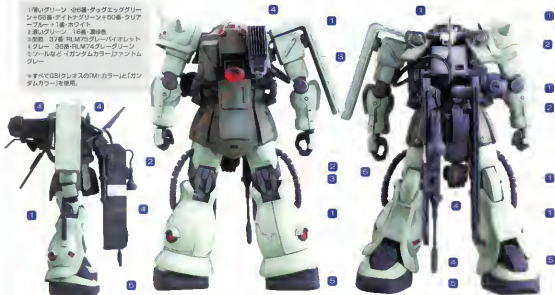


MS-06F ザクⅡ  
[シュトゥツァー]

カラーリングデータ

- 1 薄いグリーン 46番・ダグエッググリーン  
+ 05番・ダイトナグリーン + 00番・クリア  
+ プレート1番・ホワイト
- 2 濃いグリーン 15番・濃緑色
- 3 顔面 37番・RLM74グレー・バイオレット  
+ グレー 38番・RLM74グレー・グリーン  
+ シンボルなど + ザクダムカラー・ブアントム  
グレー

※すべて081クレオスの(M・カラー)と「ガン  
ダムカラー」を使用。





## MS-06F ザクII

## [シュトゥッツァー]

バンダイ/100スケールプラスチックキット  
「マスターグレード」

MS-06F2 ザクII F2改造

製作・文 松井健之

前ページのソラリュウ、耐水圧に続き、シオン  
殘党部隊仕様のザクF2です。本体はほぼストレ  
ートに組み、最終装甲や武装をスクラッチして  
います。今回、僕には珍しくほぼプラ板で  
の製作です。パテを使ったのはエリのとこだけ  
。それも「アルデコ」だし。

まずは一帯の特徴である、前面のウインチュ  
ユニット、装備品のビーム・ライフルと腕の合計幅  
を測定し、それに合わせて2枚の板の間隔を決め、  
ボトムユニットの基部を製作します。中にボリキヤ  
ップを仕込み、ウインチュユニットは前方にスイン  
グするようにします。その後キットの胸パーツを  
取り外し、そこに取り付けます。

ウインチュユニット自体は1ミリプラ板をベースに、  
エバーグリーン、緑の切りプラ板やプラパイプ、コ  
トブキヤのリベットパーツ各種を用いて彫刻よくデ  
コレートします。両腕の板は「クラッシュした艦  
艇の外装甲を剥がしたものを流用した」という  
設定なので、個体によって形状に少々違いがあ  
るとのこと。そこで先月のお二人と変化を持た  
せるため、ベース部・断崖の形状をプラ板3枚重  
ねて表現してみました。

次にボディの機殻装甲を作っていくのですが、  
イラストに比べてキットの両肩、外側のラインが  
ハの字に切れているので、各部の印象を極まる  
ようにアレンジしていきます。その後、各パー  
ツをプラ板やプラパイプで組んでいきます。

塗装は、カラー一役が間に合わなかったで、  
担当を介して藤岡氏の指示を仰ぎつつ進んでい  
ますので、細部については若干違うところもあ  
ると思いますが、ご了承ください。「ZEON  
ALIVE」などを機型に書くのに意外なほど緊張  
したのは今回が初(1)だからですかねえ。(笑)

## ■PROFILE

さくらいのぶゆき 意外と(失礼)機殻製作のコ  
ーディングがうまいことでも定評があるモデラー。  
電撃ホビーマガジン誌上で活躍している女子モデ  
ラーユニット「モテム」の一人の師匠でもある。近  
況・最近若い機に模倣を教える機会が増えました  
(笑)。が、話しているといつも感じるのは年齢差  
「甲子年」と見たあふアニマが」と言うこと「えっ  
それ、結構前の時でした」と。やはり僕は  
おっさんなのかな?(笑)



AWU

胸肩には固定式装束のマウントと、防弾力強化のために装甲板が  
増設されている。胸部中央のブレードはウインチュユニットのワイ  
ヤーからモアイを守るためのワイヤーカッターである。



右肩関節部のアームパーツ。ウインチュユニットと呼称される装備  
のメインパーツである。推進器が内蔵されており、射出後も遠隔  
操作で自在にコントロールできる。



左腕関節のワイヤーウインチ。ウインチュユニット内のワイヤーを  
巻き取るための巻盤「ウインチュユニット」の名がこれに由来し  
ている。



頭部

両肩関節 関節ユニットの両りも装甲板が増設されている。腰部  
の中心線上に設置されているワイヤー・カンターが特徴的である。腰  
からモアイを守るためのワイヤーカッターである。



固定式化したビーム・ライフルは、ゲルググ南のものが改造  
され使用されている。エネルギー供給回路をなくするため動力  
パイプにより前部のジェネレーターから直接行われている。



増設

右肩から大きく伸び出したユニットは、ビーム・ライフル使用の  
ために装備された高出力ジェネレーターとその冷却装置である。  
機殻外の前段を保護したため機体フレームから大きくはみ出す  
結果となった。

## 途中段階

1 フロント・シールドは「マスターグレード」ザ  
クII F2のものをもそのまま活かす。追加装  
備を取り付けていくという方針で製作。この  
機体にも、さらに各機の前板が行われている。

2 胸は左右にユニットを取り付けるために  
大きく切り欠いて対応。コクピットの正面  
装甲はすべて取り外し、増設装甲部分の  
板を取り付けた。

3 両肩から前面にかけての機殻ユニット。  
ほぼプラ板による製作で、面の機殻部分  
はパテで補った。

4 プラ板をメインに製作が行われた胸板左  
部のブラス・ホーム。右側の機殻部分には、  
「マスターグレード」のモールドを  
流用。



3



4



ジオン残党兵ガブリエル・ゾラの  
“ドム[シュトツァー]”を「HY2M リック・ドム」から作る。





## MS-09R RICK-DOM [Stutzer]

BANDAI 1/60 scale plastic kit "HYPER HYBRID MODEL 1/60 GLORIOUS SERIES"

MS-09R RICK-DOM

modeled by Takashi Yamada

これまでT3部隊に戦いを挑み続け、今月号の小説パートで、遂に壊滅してしまったジオン残党部隊。

その中で、唯一逃げ延びたのが、一年戦争以来、戦い続けてきた歴戦の兵士。

ガブリエル・ゾラが駆るリック・ドム[シュトゥッツァー]である。

ダメージを受けることに「パーツの換装を行ってきたこのリック・ドム[シュトゥッツァー]を

「HY2M 1/60 グロリアスシリーズ リック・ドム」をベースにした1/60スケールのハイディール版で山田孝が製作。



高度なセンサーが集中している頭部ユニットを増設装甲で厚く保護している。顔部の突起物は双方のフィン・ユニットのワイヤーで隠す必要があるためワイヤー・カッターである



ただでさえ薄いリベットと胸板装甲の上に、増加装甲が取り付けられている。胸板中央のハーツはフィン・ユニットで、その上部のブレードはワイヤー・カッターである



シフト・ジャガーシリーズの共通装備であるフィン・ユニットの基部。このワイヤー・フィン・モジュールとすることから「フィン・ユニット」と呼ばれている



## カラーリングデータ



① 下塗り タミヤの「グレース・フェイサー」(白)を塗ってから、33番・つや消しブラック

② 赤 60番・グラブ・ホワイト 60%+14番・ネービーブルー 20%+67番・パープル 20%

③ 黄 14番・ネービーブルー+1番・ホワイト 少量

④ グレー 18番・ニュートラルグレー

⑤ 赤 70番・シャインレッド 60%+1番・ホワイト 10%

⑥ 鉄青 33番・エクストラダークグレー+1番・ホワイト 少量

⑦ 顔面 18番・ニュートラルグレー 80%+14番・ネービーブルー 30%+1番・ホワイト 20%

⑧ 以上をエアブラシで塗り、使ったカラーをすべてCGI(クレイスタス)で「カラー」の層後にデカールを貼付け、「スーパークリアー(つや消し)」を吹き付け、4番・シルバーで軽くドライブラシをして完成。



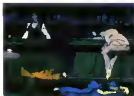
## HISTORY OF A.O.Z

## A.O.Z 年表

外伝である「A.O.Z.」と、正伝である「機動戦士Zガンダム」・その2作品は歴史上ではどのようにつながり合っているのだろうか？

## 機動戦士Zガンダム 年表

- 0083 12 04 ジャミトフ・ハイマン率領により「ティターンズ」結成。  
旧公国軍残党勢力を統合。  
0084 06 17 連邦議会、地球圏の現状維持を発表。



- 0085 07 31 3Qパンチ事件。ティターンズがサイド1・3Qパンチに高ガスを注入し住民を虐殺。反地球連邦組織(A.E.U.G.=エウゴ)を発生。



- 09.08 グリプス、サイド7に建設。

- 0086 02 06 アクシズ、地球圏に向けて発進。  
0087 03 02 エウゴ、グリーン・ノアより試作MS2機を強奪。  
03.18 アーガマ、サイド1・3Qパンチに入港。  
03.25 アーガマ、アンマン市に入港。  
04.29 最後の木星エネルギー輸送船ジュピトリス地球圏に降進。  
05.11 エウゴ、地球連邦軍基地ジャブローを攻撃。騎兵隊機を以て基盤は壊滅。カラバと合流。  
06.08 ティターンズ、ルナII宙域にグリプス2、旧ア・バオ・クーを移動。宇宙要塞「セダンの門」完成。  
06.29 ティターンズ、ホンコン・シティを襲撃。  
07.08 アウドムラ、ホンコンシティを占領。  
08.10 ティターンズ、「アポロ作戦」を開始。ファン・ブラウン市を襲撃。  
08.17 エウゴの指導者フレックス・フォーランドが暗殺される。  
08.18 連邦議会がティターンズの権限を大幅に強化する法案が可決される。  
08.24 ティターンズ、グラナダ市にコロニー落としを試みるが失敗。  
09.14 ティターンズ、サイド2宙域に艦隊を集結。  
09.21 ティターンズ、サイド2 25パッチに高ガス攻撃をしかけるが失敗。  
10.05 ティターンズ、ファン・ブラウン市の一部と基地を破壊。  
10.12 アクシズ、地球圏に降進。  
10.14 エウゴ、アクシズに便箋を送るが交渉は決裂。  
10.15 ティターンズとアクシズ、連合を結成。  
11.02 エウゴとカラバ(共同軍、キリマンジャロの連邦軍基地)を襲撃。  
11.16 エウゴ、ダカールの連邦議会を占拠。全世界にティターンズの実態を告発。  
11.24 アーガマ、降参のためサイド2・13パッチ(モルガレン)へ入港。  
12.07 ティターンズ、グリプス2のコロニーレーザーでサイド2・18パッチを破壊。  
12.14 ティターンズ、サイド2・21パッチを高ガス攻撃。住民は全員死亡。  
0088 01 18 アクシズ、セダンの門を破壊。グリプス2を占拠。小惑星基地アクシズはグラナダへの落着き軌道に入る。  
01.25 アクシズとティターンズの交渉が決裂。ジャミトフ死亡。以後、シロッコがティターンズの全権を握る。  
02.02 エウゴ、「メルシュローム作戦」発動。艦隊戦によりグリプス2を占拠。アクシズの軌道変更も成功。  
02.20 エウゴ、アクシズ、ティターンズによる艦隊戦開始。  
02.22 エウゴ、コロニーレーザーでティターンズの艦隊を壊滅させるが、戦力の過半数を消失。

## A.O.Z 年表

- 0083  
0084  
12 エリアルド、ティターンズ入隊。[EPISODE 1 0]  
マーフィー小队、補給部隊を救出。[コミック4〜5話]  
0085 05 アスワン、サイド1に奇襲。ジオン軍残党、コロニー内で調整中のヘイズルを強襲[コミック6〜10話]  
07 マーフィー小队、輸送艦の運搬任務中に敵と遭遇。ヘイズル被弾する。[EPISODE 2 0]  
パイザックに乗り乗ったマーフィー隊長たち、ジオン残党により窮乏に陥る。そこにヘイズル最終形態に変わったエイバルが数隻に駆けつける。[EPISODE 2 1]



マーフィー小队、サイド1での作戦の後方支援に出撃。カール&グウィグに追撃。[EPISODE 2 2]

- 08 エリアルドとカール、演習中に敵MSと遭遇。[EPISODE 2 9]  
ジオン軍残党との戦いでヘイズル大破[EPISODE 3 0-3 1]  
試作アッシュマーが配備され、アスワン、コンペイトウを出発する。[EPISODE 3 2]

- 10 マーフィー小队、かねてより交戦中だったジオン軍残党のMS2機を撃破する。ヘイズル改が初式配備。[EPISODE 3 3]  
0086 02 マーフィー小队、コンペイトウで待機中。[EPISODE 3 3]



MRX-044[試作]プロトタイプアッシュマー TR-3(カール)。高システムの実験中に開発された機体。また宇宙での運用試験中であるが、今後は地上においてテストが行われる予定である。



生まれ変わったMRX-121-1ガンダム TR-1(ヘイズル改)も初代ヘイズルの場所はそのままで、さらに運動性、機体色も向上している。パイロットはヘイズルから引き継ぎマーフィー隊長が務める。

- 0088 02 エリアルドのギャンブラン格降。アスワンに回収される。  
05 [EPISODE 5 9]  
エリアルドの軍事裁判開始[EPISODE 7 0〜]







# ADVANCE OF Z

## ティターンズの旗のもとに

### アスワンより愛をこめて出張版



こんにちは、ケイト・ロスです

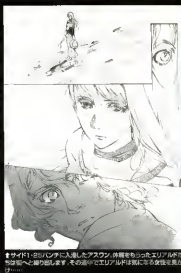
A.O.Z. は小説版とコミック版では違う視点で描かれています。

ここではホビーマガジンの連載で語られなかったエピソードをダイジェストでご紹介しましょう。

より深く楽しみたい方は、ぜひコミックスを読んでくださいな。



シオン残党の攻撃から補給船を救い、無事ヘイズルの増加選手パーツを手に入れたT8チーム彼らは、フルアーマーヘイズルのデストを兼ねて、連邦軍補給基地のあるサイド1・25バンデでのコロニー内演習をすることになりました。コロニーへの入港と共に、アスワンの乗員に与えられたつかの間の休息。事件は、その平穏なときに起こったのです

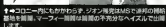


★→船に出たカールとエリアルがは連年の相手となる少将とケンカし、MPの攻撃に逃げ遅れたエリアルが乗ったのは、あへて収束途中に見かけた事の変装でした。

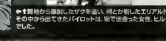
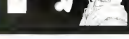
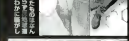
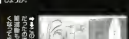
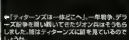
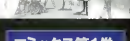
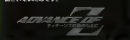
★→一度は打倒したものの、彼女と少しの間だけエリアルが少しの間、このコロニーに隠れていてシオン残党のひとりだったのです。

★サイド1・25のバンデに入港したアスワン、乗組員も乗ったエリアルがたまたまと知り合います。その途中でエリアルがたまたまなる女性を見かけ……





◆ 同じ頃、ジオン機の出展していた新兵器基地には、ティターンズの争いが、襲撃の前に、騒がけは隠れていました。



## コミックス第1巻 好評発売中!



アドバンス・オブ・Z  
ティターンズの襲撃のもとに①  
定価: 本体550円+税  
発行: メディアワークス

◆「ティターンズは一体どこへ」一見無き、ダラス戦争を闘い闘いでいたジオン兵はそうもありません。誰はティターンズに闘っているのでしょうか。

◆「ティターンズは一体どこへ」一見無き、ダラス戦争を闘い闘いでいたジオン兵はそうもありません。誰はティターンズに闘っているのでしょうか。

◆「ティターンズは一体どこへ」一見無き、ダラス戦争を闘い闘いでいたジオン兵はそうもありません。誰はティターンズに闘っているのでしょうか。

◆「ティターンズは一体どこへ」一見無き、ダラス戦争を闘い闘いでいたジオン兵はそうもありません。誰はティターンズに闘っているのでしょうか。

◆「ティターンズは一体どこへ」一見無き、ダラス戦争を闘い闘いでいたジオン兵はそうもありません。誰はティターンズに闘っているのでしょうか。

◆「ティターンズは一体どこへ」一見無き、ダラス戦争を闘い闘いでいたジオン兵はそうもありません。誰はティターンズに闘っているのでしょうか。

◆「ティターンズは一体どこへ」一見無き、ダラス戦争を闘い闘いでいたジオン兵はそうもありません。誰はティターンズに闘っているのでしょうか。

電撃ホビーマガジンスペシャル  
ADVANCE OF Z  
アドバンス・オブ・Z  
ライターンズの旗のもとに  
Vol. 2

STAFF

編集:長谷川真、佐々木健、和久津博、電撃ホビーマガジン編集部  
編集協力:高田敦文、守屋史絵、片岡大輔(アークライト)  
アートディレクター:CREATIVE STATION BEE-PEE(兎玉野呂)  
表紙・デザインDTP:CREATIVE STATION BEE-PEE(永田敏之、SOKURA)

撮影:LCRAFT  
協力:株式会社サンライズ・ライツ営業部ガンダム課  
株式会社バンダイ・ホビー事業部

発行:2004年1月5日 初版発行

発行人:久木敏行  
編集人:佐藤忠博  
発行所:株式会社メディアワークス  
〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-6 東京YWCA会館  
電話 03-5281-5236(編集)

発売元:株式会社角川書店  
〒102-6177 東京都千代田区宣土見2-13-3  
電話 03-3238-8605(営業)

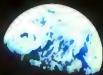
印刷・製本:凸版印刷株式会社

本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合、日本複写センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

盗丁・乱丁本はお取替えます。

ISBN4-8402-2589-3 C9478  
雑誌54883-17





サンライズ  
電撃コミック  
共同企画

—アドバンス・オブ—

電撃コミックス

# ADVANCE OF

ティターンズの旗のもとに

1

原作 富野由悠季・矢立肇

作画 カサギマツ

好評発売中

定価：本体550円＋税

宇宙世紀0081

一年戦争終結より4年。

月刊コミック電撃大王（毎月21日発売）にて連載中の  
コミック版もエリート級！

連邦のエリート集団「ティターンズ」に配属された若き士官、エアリアル・バークは、伝説の「ガンダム」の名を冠したモビルスーツ、そして伝説の仲間とともに戦いをもつて、戦っていた。そこに正義があると信じて……。

発行 メディアワークス 発売 角川書店

©新富エージェンシー サンライズ

販売店のお近くの書店で買い求めください。  
その他の購入先は書店店頭での問い合わせの所は「主編の長コールセンター」 03-5550-7518 または、メディアワークスのホームページをご利用ください。





# ADVANCE OF

ティターンズの旗のもとに

運邦 VS. ジオン DX!  
に登場した機体など  
隠し機体もすべて解析!

# キミの戦いに、 もう迷いはない!

基本性能データ・武器・戦術・コンビネーション技・チーム戦術  
隠し含む全モビルスーツ徹底解剖!

機動戦士

# ガンダム

エー・ユグ vs. ティターンズ

12月25日発売

本体1,200円

PS2

対戦の勝率がアップするテクニックを伝授。本誌で載せる全23ステージを立体的イラストマップで紹介。さらに、アーケードモードに完全クリア法の一部を除く隠し機体の使用条件を全公開、戦術に完全勝利するためのデータを収録した1冊だ!



# MOBILE SUIT Z GUNDAM A.E.U.G. vs. TITANS THE MASTER GUIDE

機動戦士Zガンダム の世界よりスピンオフしたオリジナルストーリー総集編

電撃ホビーマガジンスペシャル

THE FLAG OF TITANS Vol.2

DENGEKI HOBBY

MAGAZINE SPECIAL

# ADVANCE OF Z

アドバンス・オブ・Z

～ティターンズの旗のもとに～

ADVANCE OF  
ティターンズの旗のもとに

Vol. 2





**ADVANCE OF Z**  
THE FLAG OF TITANS Vol.2



9784840225892



1929476008206

ISBN4-8402-2589-3

C9476 ¥820E

©創造エージェンシー・サンライズ

発行●メディアワークス

定価： 本体820円 ※消費税が別に加算されます。

雑誌64883-17



